奉祝準備矯風號

3 — 395

顧問 大隈重信　會長 島田三郎
同 森村市左衛門　副會長 安部磯雄

廓清

第五巻第十一號

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可　大正四年十一月一日發行）
（毎月一回一日發行）

東京 廓清會本部 發行

毎月一回 一日發行

開拓者

毎號英文 四頁附錄

十一月號内容

◎見本は十五錢(郵券にて差支なし)を要す

發行所 東京神田區美土代町三丁目三番地 日本基督教青年會同盟本部



廓清 THE PURITY

奉祝

叡聖文武の　天皇陛下、萬世一系天地のむた動きなき大統を承け、列聖の遺烈を繼ぎ、玆に卽位の大禮と大嘗の大祭を行はせ給ふ。瑞雲天に漲り祥氣地に滿ち、麟鳳舞踊し草木樂を奏で、神人共歡す、眞に維れ慶賀の極絕也。

伏して惟るに先帝は中興の英主、明治維新の大業を遂げ、親ら萬機を總攬して庶政振興、東洋の覇を握し、朝暾の天に冲するが如く國運燦として宇内に輝き皇威赫として八紘に揚る。

而して　今上天皇陛下亦允に叡明隆德、乾坤を籠壓し陰陽を經緯す。大日本帝國の國勢は卽ち彌伸ぶ可く億兆の祉福は益加らむ、臣等昭代に生を亨くるの光榮を得、肅み謹みて、聖壽の萬歲と寶祚の無窮とを祝祈し、大典奉賀の至誠を表す。

第五年第十一號　大正四年十一月一日發行

風俗革新の急

衆議院議長
廓清會長　島田三郎

大正の維新と日本民族の覺醒

曠古未曾有の深遠なる意義を含める盛大なる大典の儀式は今や吾等國民の前に展開せられんとして居る。吾人は幸にして此國に生を享け、この千歲一遇の大典を奉祝するの光榮に浴する事を深く感謝するものである。此時に臨み吾人が如何なる思想を把持してこれに對すべきかは最も嚴肅に、最も眞面目に考へねばならぬ問題である。

過去に遡つて歷史を見れば、かの戰國時代に於ては天下の政權武門に移り、皇室はために衰微し、この重大なる卽位の大典は久しく絕えて行はせられなかつた。これが英邁なる先帝により、王政復古となり、此處に再び皇室中心の思想が强く意識されるに至つたのである。此處に初めて維新の大業成り國民は長夜の眠より醒め、世界の大勢に參するに至つた。然し當時は未だ國民の明白なる自覺もなく先帝は極めて質素なる卽位式を行はせられた。これが大正の御代に際しては、日本帝國は廣く海外にその發展を遂げ或ひは臺灣に或ひは朝鮮に著しい開發進展の事績を見るに至り、世界に畏敬せられるやうになつて來た。この大正の時代は世界のあらゆる文物を輸入した結果、これを消化して新らしき日本文明を築かんとする時代である。而して此の大典は實に大正維新の歩みの第一歩であるとすれば、吾々國民は最も愼重な態度でこれを祝さねばならぬ。

飜つて考ふるに歐洲の天地には、創世以來の大戰亂が開かれて居る。日本帝國は海を隔てゝ直接その深い影響を受けないにしても、戰後これが如何なる反響を齎らすかは、吾人の深く研究せねばならぬ問題である。要するに內に顧みれば大正の維新、外にのぞめば世界に對し、日本民族は重大なる機運に遭遇して居るのである。此の天下多事の秋に際し、國民が淫靡隋弱の精神を持ち、衰弱せる肉體を持つてどうして立つ事が出來やうか。吾々國民は健全なる身心を保ち、世界の上に、東洋文明否日本文明を建設すべく大なる堅き決心を持たねばならぬ。是に於いてか藝妓問題は忽せに看過すべからざる問題となる。

風俗革新の時代

男女關係を正しくし純潔なる精神を作るのが好いのか、それとも淫靡隋弱に流れて世界文明に遲れるのが好いのか、問題は至極簡單である。吾人が此の廓清の運動は健全なる日本帝國を生む運動に外ならぬ。古來我國の本體は身心を淸める

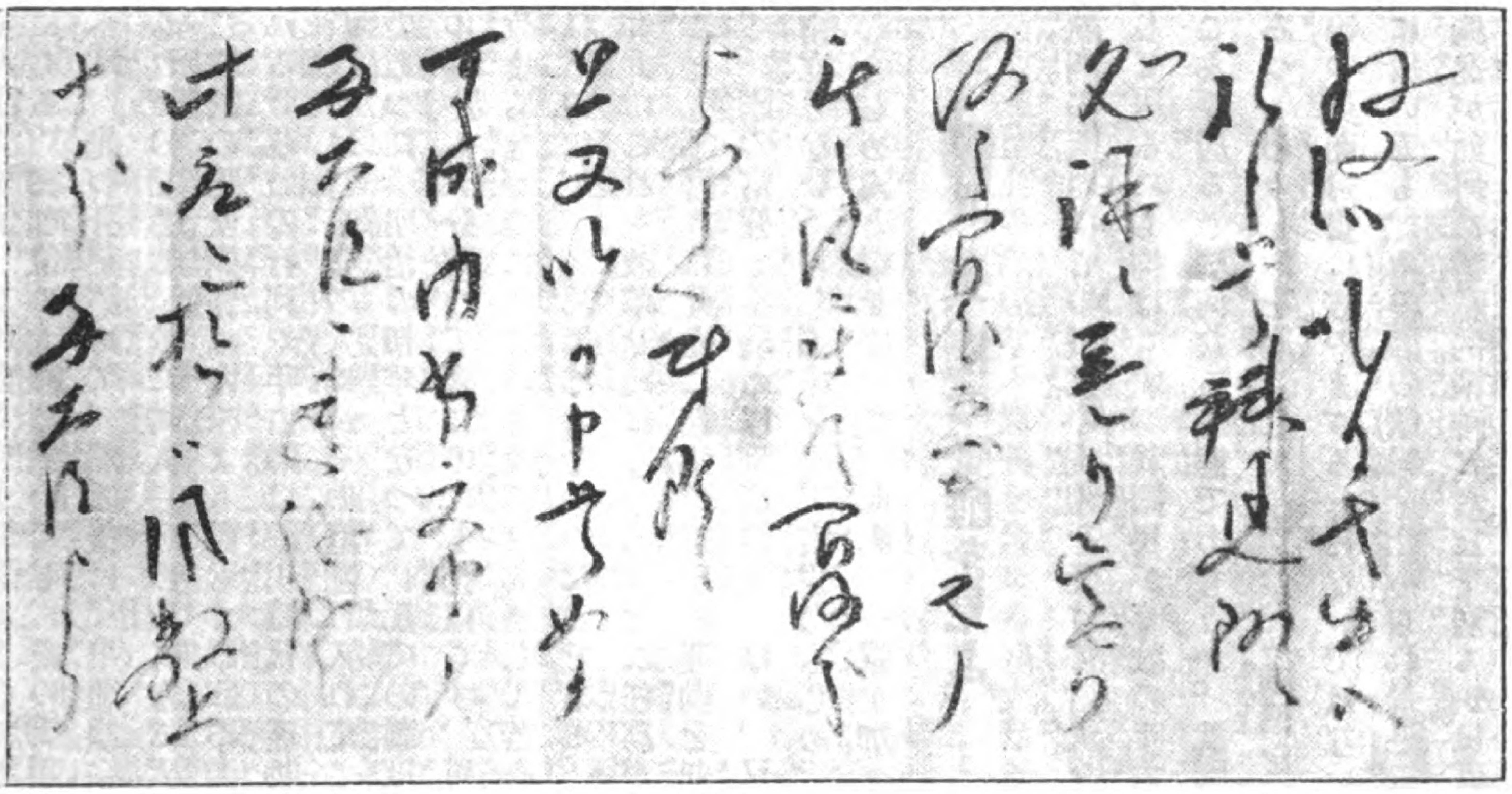
事にある。御即位の大禮に於いても、その御手續きは如何と云へば、先づ身を淸めて、然る後に、皇祖皇宗へ誓を立てさせられるのである。故に神人一致の上になる大禮である。然るに我國の男女關係は古來より動もすれば不潔な事實を發見される。藝妓の行列や手古舞は德川時代の產物であつて、この時代には、高貴の人々がその庭園に入れてこれを見物したのであつた。明治の初年となつて、凡ての制度は革新し、社會の秩序も大分整つて來たのにも拘はらず、風俗のみは大して改まらなかつた。これを改革せんとして苦心した一二の有志はあつたが、容易に捗らなかつたのである。大正の時代は是非共、これを改革せねばならぬ大なる任務がある。その第一步として吾人は此處に藝娼妓排斥の運動を起して居るのである。國の富强と惰弱とは到底兩立しない、又勤勉と淫靡とは兩立しない。若し國家をして富强ならしめ、國民をして勤勉ならしめんと欲せば、先づ此處に一擧を加へねばならぬ。

露、英、獨の覺醒を見よ

歐洲の天地はこの戰亂の洗禮を受けて、大なる覺醒を呼び起して居るにも拘はらず、我國民が藝妓の手古舞などを見て喜こんで居るとは何たる醜態であらうか。露國はその日常親しみつゝありし酒を廢止して、國民的に禁酒を斷行して居る。彼等の眞面目實に羨やまざるを得ないではないか。尚又英皇室に於いても、その酒の飲料を止められたと云ふではないか又獨逸が如何に奮鬪的精神に富んで居るかは吾人の今更驚くばかりである。聞く處に依れば獨逸人はその庭園の樹木を伐り、或ひは公園を伐木して、田園の代用として食料を作つて居ると云ふ。要するに獨逸の强きは單に武器の精銳なるのみならず、精神の眞面目なるためである。露國がこれまでの國民であつたら、その快樂の王たる酒をもぎ取られた時、必らず反抗するに相違なかつたが、彼は早や自覺の域に進んで居るからして何等の不平なしに之を實行するに至つたのである

百鬼夜行の醜態

公會の席上にかゝる不潔なる婦人を出す事は舊時代の遺風である、此の舊時代の遺物を何時までも引き摺り出す事は、自覺ある國民のなすべき事ではない。それから又彼等自身にしても、貧窮にして正當なる職業に就く事が出來ないといふので、許可を得て藝妓となり乍ら、錦衣綾羅を纒うて傲然と白晝街道を橫行濶步するとは何たる矛盾ぞ。殊に女子にして男裝を爲し、伍を立て列をなして市中をねり步くに至りてはこれ實は百鬼夜行の姿と云はねばならぬ。其これを見物する男子に至りては、醜陋の至りで己れの愚劣なることを廣告するやうなものである。若しそれ、東京の市民がこれを默過するとすれば、眠れるの甚しきを洮歎せざるを得ない。東京は帝國の中心にして、凡ての流行風俗の源泉地である。東京市民はこれに對して重大なる責任を負ふものである。私はこの大典にのぞんで先づ第一に東京市民の反省を促さねばならぬ延いては彼等醜業婦自身の自覺をのぞみ、この大典を期して正業に就かん事を希ふのである。



御大禮の神聖を瀆す勿れ

文學博士 法學博士 男爵 加藤弘之

今晩は近日御大典の日に於て所謂藝者なるものが團隊を設けて二重橋邊へ踊り出て奉祝申し上げると歟又は市中を練りまはると云ふ噂に就て

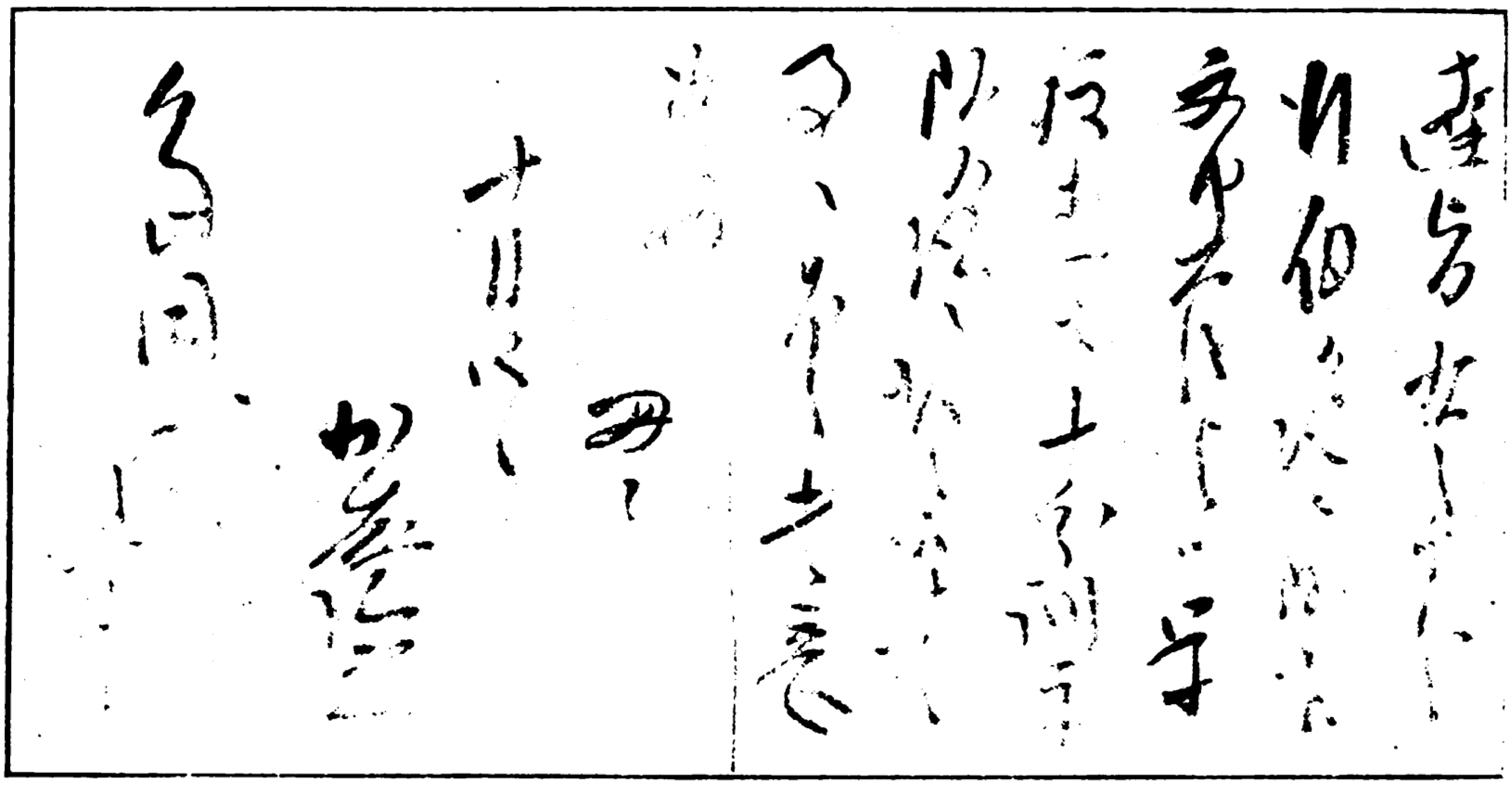
之れは甚だ恐入つた計畫であると認めて、豫め防がんとする演説會でありますから、拙者も何卒出席致したいのでありますけれども、何分にも老人であつて、健康も十分でなきことゆへ、殘念ながら夜分の出席は見合せる次第であります。

□　□

世間では藝者なるものは娼妓抔とは違ひ、全く尋常の藝人であれば、それを娼妓同樣に輕蔑する道理は決してないなどと申しますけれども、今日の藝者は昔の藝者とは違ひ、決して藝を專らとするやうな者ではなく、殆ど多數は娼妓同樣色を賣るものであります。尤も其中には色を賣らぬ者もないではありませぬけれども、其れ等は先づ容色が醜いか、又は氣のきかぬやうなるものが多いくらゐのことであります。

□　□

然るに左樣なる最多數の穢らはし



き者抔が團體となつて、盛に祝賀を申しあげる抔いふことは、實以て御大典を汚し奉る所業と認めねばならぬことで、外國に對しても此上もなき恥かしきことである。實に長歎大息せねばならぬことゝ思ます。

□　□

新聞上で見れば警視廳其他にては拙者等の主張を道理なきことのやうに考へて居るやうに見へますけれども、實に驚き入つたことゝ拙者は考へます。併し藝者といへども日本人民には相違ありませぬから、それが藝妓として團體などを組ます唯尋常一樣の人々に入交り、特別の風俗抔をせずに祝賀申しあげることは決して差支なきのみならず、誠に殊勝なることであると思ひます。

□　□

但し拙者共の斯樣なる議論に就て立派なる人々の中に反對を唱へる者も隨分あるやうでありますが、之れといふも平常高き官吏や富豪抔が藝者を重愛して、公會の席などにては必要缺く可からざる者のやうに考へてゐるからのことであります。斯樣なる官吏や富豪などは全く世の風教を害する者であります。

□　□

既に警視廳令藝妓取締規則執行心得第五條に藝妓取締の訓令が出て居りますから、假令拙者どもが心配せずとも、警視廳で十分取締の出來べき筈と思ひますが、警視廳では必ず之れに依らねばならぬ筈のことであるのに新聞上では、警視廳の議論を謬つて傳つて居るのでありませうと考へます。

大正四年十月二十八日

神田靑年會館に於ける大正會主催
大典奉祝と藝妓問題演說會にて

御大典に對する國民の注意

東京帝國大學教授
文學博士　井上哲次郎

□眞に曠絶至尊の御儀

今晩は大正會の演説會を開き意見を述ぶる事となつたが今回の御大典は中々重大な事で、通例御大禮或は御大典と申すのは、即位の禮及大嘗祭其他の前後の御儀式の總稱である。其中で最も大切なるは即位の禮と大嘗祭で、一時に行はせらるゝ事になつてゐる。昔は大嘗祭は必ずしも一度に行はせられたと限つてゐない。別々に行はせられた事もある。けれども皇室典範並に登極令が定められて、御一緒に行はせらるゝ事に極まつた。京都で行はせ給ふのは千年以上の舊都であつて皇室の縁故の深い處から京都を選ばるゝ事に皇室典範に定められたのであつて、今回は登極令や皇室典範に則らせ給ふ始めての盛儀なのである。

即位の禮と共に大嘗祭を同地に行はせられるのは、大嘗祭は此上もなき大祭であるから別々にやるのは容易の事ではない。大變である。それで數日の中同じ十一月中に行はせらるるのである。即位の禮が嚴肅なる御式たるは申迄もない、即位の禮は神武天皇以來代々行はれ、或特種の場合を除く外行はれなかつた例は殆んどない。併し乍ら大嘗祭は行はれなかつた例もある。これは非常の大典であるから莫大な費用がかかる。皇室式微の武家時代には經費の上から行はせらるゝ事が出來なかつたのであつて、無論經費さへ許せば必ず行はせ給ふ筈である、

即位の禮は日本に於ては特に重大なる意味がある、殊に今日に於て莊嚴な意味を有する。一口に世界萬國といふが萬國なんてありはしない。千國も百國もない、四十餘ケ國ある其中に、日本の樣な國は無論ない。日本は歷史前から系統綿々として、其處に玄妙なる意味がある。これを歐羅巴に比較すると餘程面白いが今は其暇がないから、先づ近い處の中華民國と比べてもすぐ分る、袁世凱は早晩帝位に即く事であらうなりたくないやうにしてゐて其實なり度くて堪らないのだから、何れ遠からず皇帝の位に登る事であらうと思ふ。乍併袁世凱が愈帝政を布き即位の禮を行ふ時果して如何なる感があるであらうか。尊嚴な敬虔な念慮を以て迎へ得るであらうか。袁世凱は要するに成上りで、一代にして成上つて旨く中華民國の頭となつてはゐるものゝ、これ迄やつて來てゐる處を思ふと、實に危い輕業のやうなことをして來てゐる。清朝に忠を盡すかの如くにして革命軍と款を通じ、却つて清朝を事實に於て打亡ぼして了つた。而も彼は革命軍と款を通じた結果共和政體を布き大統領となり乍ら、彼の目的は其所に

なかつたと見えて帝政にしようと焦慮してゐる。今日の形勢よりすれば早晩袁皇帝となつて群臣に拜賀せしむるであらうが、彼には背景といふものがない。然るに日本は二千五百年綿々として一系百二十二代といふ無比の尊い背景がある。これが所謂萬國に冠絶したる嚴肅の意味を有する所以である。

日本の祭典には大祀、中祀、小祀の三種がある。神嘗、新嘗の祭は中祀であつて、大祀といふのは大嘗祭がたゞ一つである。大嘗祭は如斯國家唯一の大典であつて、大祀と中祀とは其準備に於ても餘程の相違がある。大祀になると昔は三ケ月間不淨を避けて忌をせなければならなかつた。それがいつの頃からか一ケ月になつたけれども、中祀は三日間、小祀は一日間忌をすればよい事になつてゐる。即ち大嘗祭は一ケ月間も忌を要する程神聖な祭典である。今回の祭典は昔通りでなく、色々の新らしい事が加つてゐる樣だが、聞く處によると、大嘗祭の二日には御みそぎ及大祓の儀を行はれるといふ事である。これは潔齋を遊ばさるゝ大切な祭で、餘程身を潔め不淨を避けさせらるゝのだから之に列する者は其心得がなくてはならぬ。一般國民と雖も敬虔の念を以て奉迎しなければならぬは云ふ迄もない。

□大典利用の不敬

今回の御大典は色々の方面より觀て至高最大の盛儀であり國民は如何樣なる注意を以て奉祝すべきか、豫め間違の起らぬやう研究を要する。元より此上なき芽出度い慶典であるから國民は奉祝の誠意を表はさなくてはならぬ。それには十日とか十四日のやうな大切な日には、不淨に近き又は喧嘩などするやうな事があつてはならぬ。日本では酒を飲むと毆り合ひをするといふ事が中々多い。甚しきは血を流す事すら稀でない。斯樣の事があつては大典を汚し奉る畏多い事で、是非避けなければならぬ。更に最も陷り易く注意を要するのは普通のお祭りと同樣に考へて色々の醜態を現はす事である。

先刻來藝妓問題に就て適切な話があつたやうだが、私も一言意見を申述べたいと思ふ。

先日或人が來て、貴下は大正會に出るといふが藝妓に反對するかといふ。さう一言に反對かといはれると、簡單に然りといふ譯には行かぬ。藝妓を敵とする、あんな女性を敵として活動する……といふのも一寸變である。私の考へを判然として置かなくてはならぬ。

今日は先に申述ぶるが如く國民が最も嚴肅に考へねばならぬ。非常に大切な秋である。今上陛下が實際に於て天皇となられたのは、先帝崩御の時間もなく踐祚の式を擧げさせられた時からなので、即位式は行はれても行はれぬでも天皇たる權威に變りはない。乍併踐祚式は宮中の簡單な儀式に過ぎずして國民一般の注意を惹かぬ。御即位式は即ち一般に分るやう行はせらるゝ國家絶大の儀式であり、大正の時代は此時から始まる意味を有つてゐる。大正の新時代がほんとうに開拓されるのは今後にあつて、今日に端を發しなければならぬ。明治維新に對して大正維新が始まらなければならぬ。即ち今

後の日本の新時代の始めをなす非常に重大な意味を有つてゐる時期であるが故に、人民は不心得な事をして神聖を冒瀆し奉るやうの事があつてはならぬ。普通のお祭騒ぎに見る藝妓が練り廻るやうな事があつて可いか惡いか、自ら明ではあるまいか。彼等は時さへあれば手古舞などいふ妙な眞似をなし社會の注目を惹く様な事をする。藝妓が注目を惹かんと努むる一方にこれに又注目せんとする者がなか〳〵多く、兩々相應じて風儀を紊つてゐるのが現狀であるが、御大典は御大典の意義を明に會得し敬虔の心を以て迎へなくてはならぬ。これを自分の道具とし、自家の廣告に利用するとか、己れの利慾の滿足を圖るとかいふ事があつてはならぬ。況んや御大典を機會として青年を誘惑しようといふのは實に怪しからぬ。日本ではどうも屢々斯樣な風教上恐るべき事を仕出來かす事があるから、充分に注意を與へなくてはならぬと思ふ。

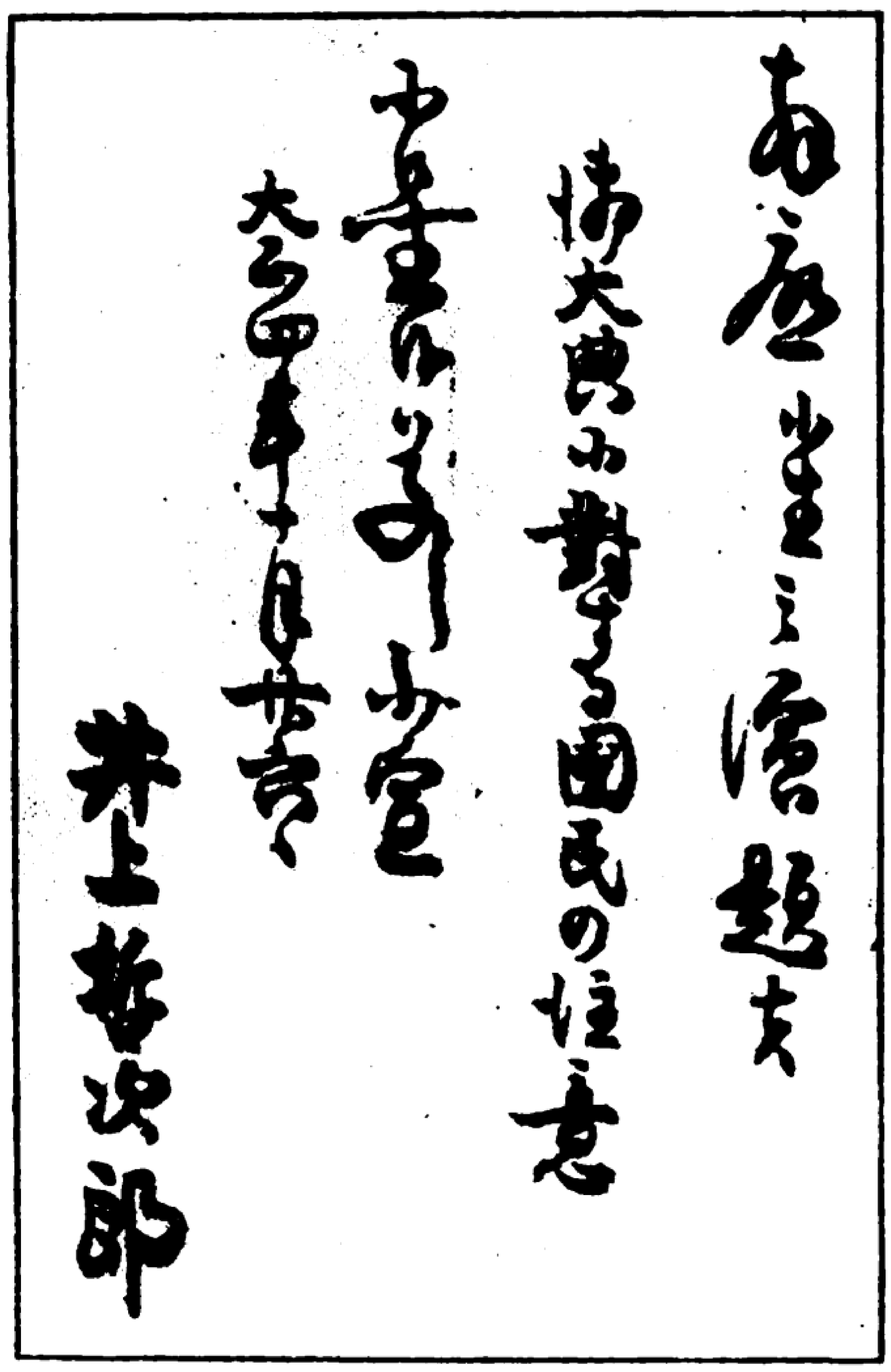
藝妓は正面から反對かといはれると、一寸申惡いと申置いた。一體藝妓は西洋には居らぬ。希臘時代には似た者があつた。けれども今日はない。支那は昔からあつて今日も居る、隨分昔は諸官省に迄藝妓が這入り込んで居つたものである。或は之は支那の風かも知れぬが今日は日本の名物のやうになつて了つた。併し乍ら之は名物として誇るに足るかといふと餘程考へ物である。表面から見れば藝術家であるから一概に反對が出來ないが、裏面から見れば明白に醜業婦であるから排斥しなければならぬ。けれども之は藝妓ばかりを斥けやうとしても斥けられぬ。藝妓を愛する男があるからで、要求があるから應ずる者が出來てゐる。一方に儲けた金を藝妓に注ぎ込む者があるから、立派な着物も出來るのである、されば藝妓だけを叩き潰すのは六ケ敷い。これはどうしても社會組織の改善から始まつて、彼等を跋扈しないやうにせなければならぬ。



□宴會改良の急

文物制度は明治に於て奇蹟の如く進歩したが、斯ういふ方面は一向進んで居らぬ。一番弊害があるのは酒宴の仕方で、敎育社會の宴會は、大學では山上の御殿でやるし、其他多く精養軒と云つた風に西洋料理にするから藝妓と無關係で開かれるけれども、一般社會に於ては昔風の料理屋を用ひ、或種類の人は西洋風にやるのを好まない。日本料理を用ひる結果どういふ風になるかといふと、宴會の性質からはほんとうの懇親は

出來ぬ事になる。お客の前に藝妓お酌が向き合ひになつて、肝心の客同志は遠く向ふに離れてゐる、西洋料理は後からボーイが給仕をして客と客と互に向き合つて話をするが藝妓は前に來て座るから、自然話對手は客同志でなくて藝妓といふ風になる。又それを樂しみにするに至つた。美形が自分の前に座る、それを樂しみにしてゐる者が中々多い。斯うなつては藝妓が要るに定まつてゐる。併し宴會の意味からいふと誠に不滿足なやり方で、食物にしてもちやん〳〵と運ばれず、時々持つて來るから、場合によつては碌に食べずに歸る事も少くない。而も終りには三々五々彼方此方に集まり席が紊れる。ちやんとした宴會が出來ない。甚しきは藝妓と稱する奴がお膳を跨いだりする。實に亂雜極まつたもので、時としては喧嘩が起る。鐵拳が飛ぶ。或時某地の敎育界に聘ばれて招待會に望んだ。其內は料理屋兼宿屋で、其家がやはり私の宿に宛てゝあつた。宴會を適當に引上げて階下の自分の室に來て寢てゐると、二階が夜中矢釜しい騷ぎである。翌朝女中に、昨夜はどうしたのだ大變遲く迄賑かであつたではないかと聞くと、其後喧嘩になつたのださうで、此邊迄行かぬと此の邊では滿足しないのださうだ、それが敎育界の事ですから一驚を喫する。ところが之は地方に限らず東京に於ても然うで、日本流の宴會には常に見受くるのである。日本流はうまく相談が出來ず、わい〳〵物の分らぬ藝妓などを對手にして、醉うた揚句は不良な行爲をするのである。これは實に宴會の方式が左樣に發展せしむるに適當になつてゐるのであつて、藝妓ばかりを撲滅しようとしてもそれは六ケ敷い。



□藝妓の生む害毒

斯樣な宴會の繰返さるゝ結果は客と藝妓と二度以上顏を合せるやうになる、段々馴染になる。遂には宴は果てゝも立つに立たれぬ事となつて來る。段々家を明けて細君に空房を守らせる、荒い金を使ふ。第一に困るのは妻君だ、とステリーになる。子供も泣く。國家の基礎たる家庭が全く紊される。國家の基礎は健全なる家庭にあるのに、其家庭の細君を不平に泣かしめ波瀾洶湧して樣々な悲劇慘劇が演せられる事となる餘程の金持でない限り、先づ大概な家では家計不如意で、眞先に細君が苦しむ。新聞は毎日其悲慘な結果を曝露しつゝあるが、何人も此戰爭以外の慘狀に就て反省しようとしない。宴會の改良、これが藝妓問題の解決に對する適切なる一方

面である。よろしく日本料理も卓子を圍んで後からボーイに給仕さする樣に改めねばならぬ。併し男ばかりでは殺風景であるし、人間は他性を要求するから家庭の婦人が男子と一緒に招き招かれるやうにならねばならぬ。どうも日本では妙な癖で、男と女と交つて宴會を開くなどゝいふ事が行はれない外交官位の間にはあるが一般の人達は偶々男と女と集る會があつても、女は女 男は男と別々に集ふてゐる。入交らずに女は女だけで隅つこの方に片寄つて話をしてゐる。これだから藝妓などが跋扈するに至るのであるから、淑女が藝妓の眞似をするのぢやない。そんな事があつてはならぬが、男女が入交つて淸く愉快に懇親する、西洋の樣な風に行きたいと思ふ。

□男女問題自覺の秋

日本人は藝妓にばかり接してゐるから、女を見ると藝妓同樣卑しい考を以て臨む。日本はまだ此點は確に半野蠻である社交がもつと上品に行かなくてはいかぬ。社交が愉快な上品なものになると細君が空房に泣く必要もなくなる。これはどうしても日本料理も卓子を置くに限ると思ふ。そして一種の醜業婦などの乘ずる餘地のない樣にせねばならぬ。

一體藝妓は氣の毒な境遇にあるもので、婦人問題の大きな處から云へば救濟すべき者である。彼等は自分が憐れむべき者たる事も知らず得々としてゐるが、救濟さるべきものである。娯樂の道具に使はれて得意になつてゐるのであつて、此方面より見るも社會の組織を改良して、害惡の由つて生ずる原因を除くやうにせねばならぬ。

日本人は女を見ると、すぐ娯樂の道具の樣な觀念を有つてゐる。全く之は藝妓などに接するより起る思想で、もつと婦人に對して眞面目にならなくてはいかぬ。何處でも婦人は侮辱せられてゐたものではあるが、西洋は早く進んで婦人解放が叫ばれ、日本より先に地位が高まつた。婦人問題は大きな問題で玆に說く時間がないが、日本人は餘程考へなければならぬ問題である。

御大典は實に絶好の機會で、殊に今上陛下は一夫一婦の龜鑑に坐しますのだから、御大典を新紀元として日本國民は斯ういふ方面に自覺し努力すべきであらう。藝娼妓が斯かる際に醜態を現はして、青年男女の耳目を汚すのは私は絶對に反對である。或は彼等も國民だからといふ。それは勿論の事、彼等の境遇を思ふて眞面目なる祝意を捧ぐるのは望ましい事であるが、得意になつて、平生醜業をなす者であるにも不拘、公然飛出して練廻すのを社會は恥づ可き事とするのである。此點に於て明治以來餘りに進歩してゐないから、日本人が他の事業と共に進歩する樣努力したいものである。

□廓淸演說會　▲牛込分會主催

來廿七日午後六時半、早稻田敎會に於て牛込廓淸會員の主催にて廓淸演說會を開く、會員諸君の乞來援

辯士は、平沼淑郞、益富政助の二氏多分出演せらるべく、外に角田能雄、治部茂、鹿侯氏等の靑年出演の筈

宜しく臭い物に蓋すべし

早稲田大學教授
廓清會副會長　安部磯雄

私等の今回起した公會の席上に藝妓を侍せしめないと云ふ運動に對しては或一部の人から多少の反對が起つて居る。その主なるものは彼等とても皆國民であり陛下の赤子である、殊に彼等より税金を徴し彼等をして赤十字社や愛國婦人會の會員たらしめておき乍ら、普通の人民扱にせぬといふのは無法だといふのである。

吾々は決して個人として彼等を憎むのではない。併し、吾人の立場は社會の風敎を維持して行くと云ふのであるから、彼等を『藝妓』として許す譯には行かない。故に彼等が赤十字社に金を寄附して居るならば赤十字社の會員として赤十字社員らしき服裝でやつて行くがよい。彼等が萬人に醜業婦として認識され乍ら、其儘の裝して社會の表面に表はれて、大びらな動作を爲すといふ事は、社會の風敎維持の上に於て、殊にそれが純潔なる青年子女に如何に不良なる影響を與ふるかを想ふ時は到底默過すべからざる問題である。

文明は解放なりと云ふ立場より觀れば、或ひは彼等の如き所謂臭い物の蓋も解放しなければならぬかも知れないが私は自然自義は決して文明であるとは認めない。何事も自然の儘に生活して行くと云ふ事は人間の向上を無視した、非文明的生活である。自然主義を徹底的に實行すれば例へば夏の暑い時などには裸體で外を歩いてもよい事になる。或ひは情慾の自然に從つて、強姦野合も差支ない事にならう。これ果して文明と曰はれやうか。文明生活は禮儀を要する。從つて窮窟も伴ふものである。健全なる思想強固なる意思に依つて自己の本能生活を統御して行く處に初めて文明があり、向上がある。

これに就いて一二の例を擧ぐれば米國人は非常に婦人に對する禮儀が正しい。例へば彼方の人間は旅館の女中などに對しても決して便所の所在を聞くやうな事はない。婦人に對して便所の所在を聞くさへ一種の侮辱として居るのであるから日本のそれとは誠に雲泥の差がある。日本の建物は却つて便所を特に目立つやうな處に備へて居る。イヤな風習である。此の間シカゴの野球の監督が妻君と一緒に有樂座の劇、淀君と秀吉との對話の場面を觀た際に、その妻君が同伴の高杉君に淀君は何かと問ふたので、高杉君は非常に答へに窮したといふ。而してとう〳〵妻と云つたそうだ。そうしたら妻君は頻りに「年がちがふ」といふので大に困つたと高杉君は語つた。つまり西洋の婦人の前では妾などいふ言は使へないのである。然るに日本では婦人の前で猥褻なる言語を發するものすらあるに比べて大なる相違である。

吾々は妾とか藝妓とか、待合とかと云ふ言葉そのものを絶滅したい。少なくとも其表面だけでも斯かる言葉をなくした

い。斯くして先づ社會の表面を立派に奇麗にすれば、今日の新聞の三面記事の如きも餘程調子を變へて來るだらうと思ふ。要するに醜業婦をして社會の表面に活躍せしむる事は、我輩の常に言ふ下水の噴水であつて、文明の市街にて忍ぶ能はざる所である。下水は須らく下水らしく處置せねばならぬ。臭いものには蓋をすべき筈である。それが文明生活なのである

祖先崇拜を徹底せしめよ

早稲田大學教授
廓清會理事　内ヶ崎作三郎

□大典奉祝の態度

吾々國民はこの莊嚴なる大典に際して出來得るだけ眞面目に、そして赤誠を披瀝して敬意を表せねばならぬ。これに就いては先づ日本の國體に付き日本民族の長く發展して來たるその文明の特色に付き眞面目に考へるべきものである。日本の國體を知らず日本民族の特色を知らずしてこの大典を嚴肅に祝することは出來ないからである。又この新紀元より日本民族が新たなる發展を爲さむとすれば、先づその特色を考へねばならぬのではないか。

□日本文明の特色

而して祖先崇拜が日本文明の長所の一たるは疑を容れぬ。日本民族が過去何千年間の長い歴史の道程を有するのは、即ちこの祖先崇拜の産物に外ならぬ。今日日本民族が皇室に對する崇拜の念は、矢張り祖先崇拜と深い關係がある。勿論この祖先崇拜の觀念は日本のみにあるのではない。基督教の如きも同じくその舊約聖書にこの思想が表はれて居る。然しながら日本の祖先崇拜は西洋のそれよりも深く且つ繼續して居る。

□祖先崇拜の歴史

然らば日本民族の祖先崇拜が如何に發展して來たかと云へばその起源は遠く我皇祖皇宗が天地の神を祭りてこれを崇拜してより初まる。即ち我皇室の祖先は神よりその生命を受け繼いで居るのであるから、神に對する崇拜が起つたのである日本の皇祖皇宗は宇宙の契中の大生命より生れて一般國民に下つて來たのである。故に國民と皇室との關係は現在こそ異れ古代に於ては本家と別家との關係であつた。皇室を本家として國民を別家として此處に皇室中心の思想が育まれて來た。故に日本の皇室中心主義は宇宙生命より來るものである。

□祖先の恩義

日本民族の祖先崇拜は斯くの如くにして發展して來たので

あつて、吾人はこれ等祖先の厚き恩義によつて現在を生活して居るのである。吾人の言語は如何、衣服は如何、肉體は如何、風俗習慣は如何——これ皆祖先の作つたものではないか。勿論吾々も現代語を作り、衣服を作つて居るが之等のものゝ多くは祖先が作つたものである。吾人のこの肉體の清き血は此美しき髪は、此逞ましき骨格は、親より、その又親より其又親の親より何千年の過去より授けられたものではないか。

□形式的祖先崇拜

然るに近來淺薄なる歐洲思想を輸入して、この貴き祖先崇拜の觀念を、一種の迷信の如く輕侮するのは、現在が過去に依立する事を知らざる盲者である。過去あつて現在あり、現在あつて過去があるのではないか。過去のない現在もなければ現在のない過去もない。新しき思想も皆古き思想の上に樹てられたものであるから、無暗に古き思想を排斥する事は出來ない。故に祖先崇拜を離れて完全なる宗教はない。吾人は我祖先が過去幾千年間に於て努力し奮闘して、今日の文明を齎らして來た事に對しても深き感謝の意を表せねばならぬ。

□避妊の罪悪

近來漸く行はれて來た避妊の如きもこれは生命否定であると同時に、又大なる祖先反逆である。若し祖先崇拜の心あらば祖先が我等を生みし如く、我等も子孫を生まねばならぬ。今日は人心徒らに輕薄に流れ眞の祖先崇拜を爲して居るものはない。唯形式的の祖先崇拜であつて、實業家と云ひ、教育家と云ひ、宗教家と云ひ、軍人と云ひ、皆眞にこれを理解して居るものゝないのは悲むべき事である。

□藝妓と文明の攪亂

吾人はこの祖先崇拜の立場よりして、此處に是非今日の藝妓なるものを排斥せざるを得ない。勿論藝妓といへども皆國民である以上無暗に排斥する譯ではないが——殊に今日藝妓の社交上に發展し其必要に應じて居るのは決して彼等の罪惡に非ずして他の婦人の努力智力才力が足らないからである。然しながら吾人は彼等が今日に於いて文明を攪亂する、或る一の根源であることを認むる時これを默許する譯には行かぬ。吾々は、これまで藝者を一の藝術家として尊敬して居たのである。然るに今日に於ては彼等は藝術家といふよりも、賤業婦である事が天下に明らかになつて來た爲めに、此處に問題を生ずるに至つたのである。私は理想的藝妓に反對するものではない、が彼等が不德なる行を爲して中流以上の風俗を害し、前途の光明ある青年を毒し、貴族富豪に破産の悲劇を演せしむる原因となるに於いては默すべからざる重大なる社會問題とせねばならない。今日は特に中流以上の社會が亂れて居る。上中流の人間には熱烈なる精神もなければ奮闘も努力の精神も漸く衰へつゝある。これは即ち藝妓の及ぼす影響である。今日貴族の先祖は如何であつたか。伊達正宗、徳川家康をはじめ皆大なる偉人であつたが、今日の貴族中幾人の英雄豪傑ありや。何故に英雄偉人は出でざるか。其一大原因は精力の濫用より來る。抑も文明とは之を端的に言へば情慾の變化したるものである。この定義に從つて文化の度が刻まれて行くのである。

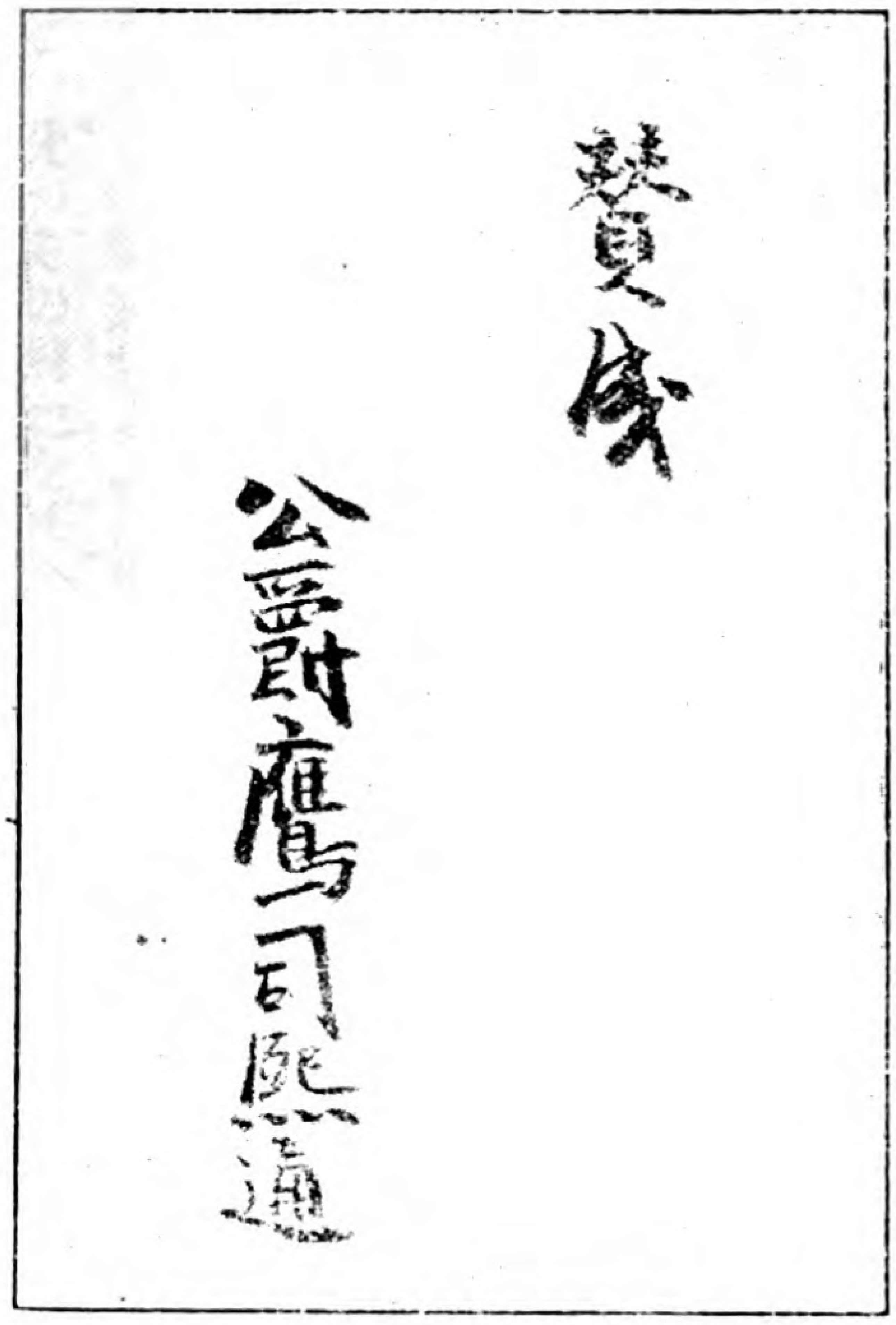
□大正の使命と人物の出現

吾人は現代を超越する事に依つて始めて文明を進展開發せしむる事が出來る。故に吾人は祖先を崇拜すると同時に又現代を超越しなければならぬ。自ら祖先以上の人物となり、文明の開拓者とならなければならぬ。大正の時代は大なる使命を持つて生れて出た。この最も重大なる時代に於いて中流の社會を精神的にも亦肉體的にも墮落せしむる藝娼妓の類を公然と許容するのは誠に吾人の痛嘆に堪へざる處である。

女子の教育と男子の貞操

文學博士　吉田熊次

私は女子高等師範で近頃四年の修身を受持つてゐます、未だ此の頃の樣に貞操問題を取り立て〻書かない頃の事何時であつたか四年の組に貞操について感想を書かした事がありました、卅分の間に自由に自分の考へを書く事が出來る樣に、無記名で文科理科技藝科の屬してゐる組丈けを書いて置く樣に云ひました、卒業生は女子の中等教育に從事するので地方に行つた人は地方の純樸な子女に接するのですから、至つて質素な教育を授けてゐる爲か百廿名位の級が全體『貞操は生命を賭して守らねばならぬものだ』と云ふ事に一致して居りました、其中の三名の人は特別な事情とか其他の事に餘儀なくされて貞操を賣らねばならぬ人があつても、その人については其人の事情を考へてやらねばならぬと書き添へ、又二人許は從來の日本の結婚形式には缺點がある、親の都合とか其他の事情の爲め結婚をし貞操を破つたりするのだから其形式を改良して合意の上で結婚すべしと書いて居りました、而して答の殆ど大多數は女子丈に貞操を強て、男子を見遁すは非常に不思議な事だと云ふのでした。この人達は大體に於て日本の教育ある婦人の輿論を代表してゐると云つて宜しいでせう。そして此要求は女子教育が普及すると共に進んで來ると見てよいでせう。全體野蠻國では男子の不貞操は誰も咎めません、女自身もそれを認めてゐるのですが、文明と共に男子に要求するのは自然の樣です。個人々々に就いて考へても發達した人間は自分の配偶者が多數の人に許すのを見ることは堪へられますまいさうすれば自分も之れを守らねばならぬのは自明の理でせう。この自覺さへあつたら、貞操の問題は容易に解決されると思ふ、日本では此點は非常に低級なもので、今も尚公の席上で貞操を有して居らぬ藝者に平氣で出席させ、そして流行の中心たり先驅者たらしめてゐるのは不都合だと思ふ、勿論非常に特別の事情と理由とかゞこの種の人々の存在を許すべきであつても、それは總て裏面に深く葬つて置かるべきである。今一度貴會の演説があるなら其時充分所信を述べませう。



支部分會を作れ

集合は力也會員各位の奮起團結を促す

廓清會支部準則

第一條　廓清會は各地に支部又は分會を置く

第二條　支部は貳拾名以上の會員所在地に之を置き分會は貳拾名未滿の會員所在地に之を置く

第三條　支部又は分會は其地方の市區町村名を以て之に冠す

第四條　支部又は分會に會員の互選を以て幹事を置く幹事の人員及任期は各部會に於て適宜之を定む

第五條　幹事は支部又は分會一切の事務を掌る

第六條　支部には支部員の推選により支部長を置くことを得

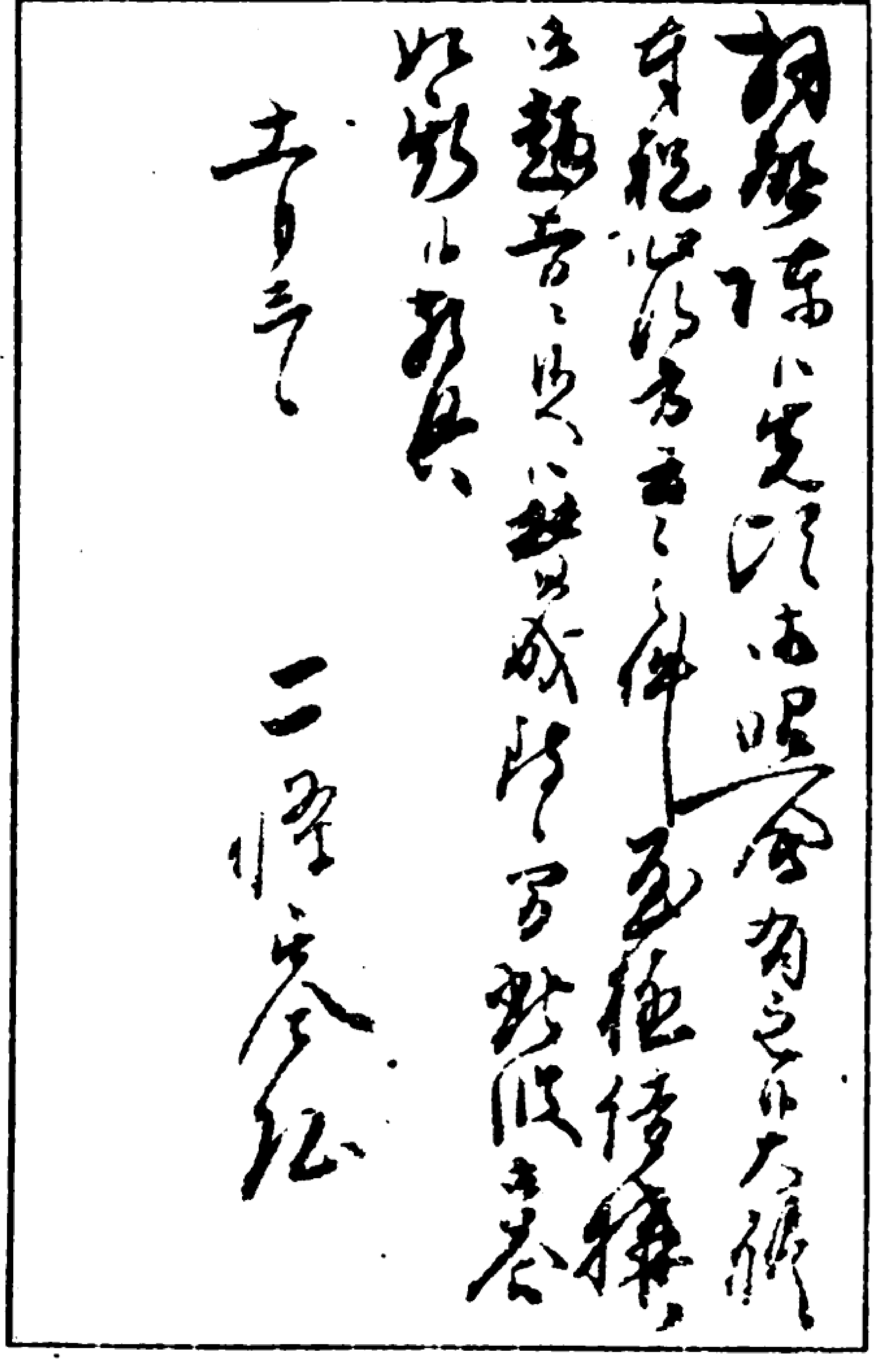
第七條　役員を推薦したる時は直に本部の承認を經可し

第八條　支部長所在地にありては支部長支部を代表し支部長なき支部又は分會にありては幹事之を代表す

第九條　支部及分會は毎月壹回例會を開き、時々演説會、講演會、研究會等を開き、其他適宜の方法により本會の主義思想を宣傳し其地方の風教道德問題の爲に努力するの義務あるものとす

第十條　支部及分會は本部に對し運動の爲め講師其他の應援者を要求することを得
但之に要する實費は支部又は分會の負擔とす

第十一條　支部及分會の費用は其支部又は分會の負擔とす



廓清會會則摘要

一、本會の目的は男女間に貞潔の德操を奬め家庭を純潔にし社會の風紀を廓清し人生の幸福を增進するにあり
而して公娼制度は此目的に反する惡制度なるが故に全廢を期す

二、本會は其目的を達せんが爲め左の事業を爲す

(一)公娼問題に對する各方面の研究調査
(二)公娼廢止の善後策を研究すること
(三)藝妓酌婦其他類似の稼業者に關する調査改善
(四)蓄妾、私通、姦通、結婚離婚、等に關する調査改善
(五)婦人問題、貞操問題に對する現狀、及思想の研究指導
(六)娼妓其他醜業婦の救濟のこと
(七)公開演説會を開催すること
(八)毎月一回『廓清』と題する雜誌を發行すること
(九)時々適當の出版をなすこと

三、本會に入會せんと欲するものは男女を問はず住所職業、氏名、年齡を記し本部に申込むべし
但賛助會は必ず口數明記のこと

四、會員を分つて賛助會員、正會員の二とす

(一)賛助會員とは金貳拾五錢を一口として、毎月一口以上の維持費を納むるもの
(二)正會員とは毎月金五錢づゝの會費を納むるもの

五、會員には總て機關雜誌『廓清』を毎號無代配付す

經濟界より觀たる藝妓

衆議院議員
法學博士　小林丑三郎

□緒論

私は稍々方面を換へて觀察の一端を申述べて見たいと思ふ。私は此問題は今日始めて關係を持つたのでなく、平素の持論であつて、常に藝妓は經濟界の攪亂者であると申して居る者である。

藝妓を醜業婦といふと色々議論もあらうが、要するに藝妓は表面は藝術家であつて事實上法律上からは疑もなく醜業婦である。其成立ちは藝妓營業願をする當初の官廳の取扱でも明瞭であるし、又實際上に於ての彼等の行動は誠に其容貌擧措より見ても、驚く可き淫卑の醜業状態にある。從つて彼等を醜業婦とする事に最早世間に異論はない。されば彼等が風教上に大なる害を撒きつゝあるは論を俟たぬ。

藝妓は風俗を壞亂し、子女の墮落を誘導し、惡疾の傳播をなすが如き百弊を撒布しつゝあるは、此上いふ迄もなく疑もなき事實である。故に私は此風教上の方面からは最早此上攻擊を加へまい、またそれは私の專門でもない、私の主として話したいと思ふのは、藝妓と經濟との關係である。

□經濟と藝妓とは兩立せず

經濟上から見て藝妓は殆んど其敵なりといふ事が出來る。經濟と醜業婦とは到底兩立しない。今日の經濟の主義は「最少の勞力で最大の效果を期する」などゝいふやうなものではない。それは昔の經濟主義で今日は左樣な慾深な主義ではなくなつた。卽ち勞力相當の報酬を得るといふのが經濟の眞面目な原則である。勞あれば功あり、勞なければ功なく、勞大なれば功大に、勞少なれば功小なりで、之れを勞と功との因果律と稱する。そのこれに依つて個人の勤勉心を增し、國民の奮闘を促し、經濟が發達するのである。然るに冒險投機によつて、勞なくして巨萬の富を擁し、功なくして權勢の地に居る者が在り、又淫卑惰弱にして人を懶惰放逸に導く者が美服を纏ふて大威張で居るといふのは、因と果との原則を離れ經濟の原則を無視するものであつて、國家の富强を呪咀する者といはざるを得ない。

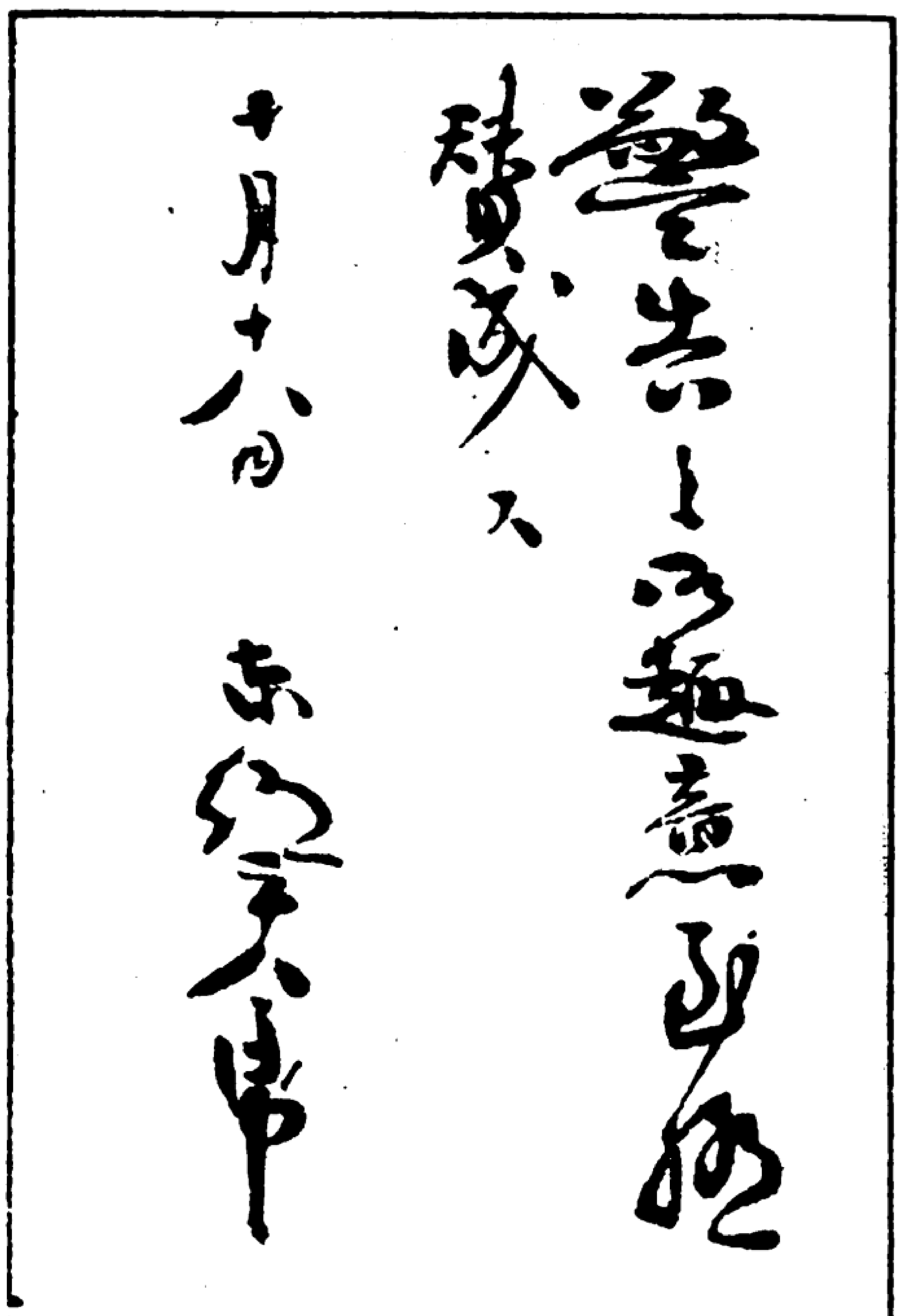
□經濟界攪亂の藝妓

藝妓は根本に如斯ものであるが、殊に其害惡を甚しくする所以は、中央より地方の小さい町邑に至る迄、藝妓酌婦は市中に散在して白晝橫行し、良家の子弟を誘惑するのであつて其結果良家の資產の蕩盡される例は甚だ多いのである。一國

の經濟は眞面目に積上げた良家の資産が永く保持される處に存する。それが國民の資産が一起一仆するやうでは國家經濟の基礎は薄弱たるを免れぬ。然るに良家の子弟をして岐路に踏込ましむる發端はといふと、常に都市に出て彼等に接近する所より始まり、次第に家業を抛棄するやうになり、父兄の感情を害ね、遂には父祖傳來の家産を蕩盡するに至る者比々、皆然りである。爲めに一家の平和は破れ風波の絕間なく、種々なる害惡が生ずる、之が經濟上から見て、第一に憂ふ可き方面である。

□取引の攪亂と藝妓

次は取引の攪亂である。此風俗は我國に久しく行はれてゐる風俗で、甚よくない慣習であるが、日本橋邊りの商人の處へ地方から得意先の息子が仕入に來る。すると先づ商家の番頭が其お得意の息子を伴れて第一に料理屋に行く、酒が出る藝妓が侍る、飮みつ歌ひつしてゐる裡に仕入れの相談仕切りを其間に造へる。從つて其息子は充分の懸引をする暇なく商取引を決行する。息子は二三日も流連けて、歸つて見ると非常に高いものにつく、それ等の費用は悉く品物の代價の上に加算せられてゐる。父がそれを見て立腹しても後の祭り、もう伜を東京には出せぬとなる。それならと云つて父が出るには宿元の方の取締がつかない事になる。之は獨り日本橋のみならず大阪、神戸、何處でも日本の商取引は醜業婦を侍めしめて盃盤の間に決行せらるゝ。西洋諸方面に行はるゝ諸取引と全然異るのである。



□銀行會社の重役と御用商

銀行會社の重役亦此風習を免れぬ。或は政府の御用商、或は貿易商などが毎夜〳〵料理屋待合に出入して取引を決行してゐる。彼等は事業の爲め酒を呑み、藝妓を侍せしむるのだといふが度重なれば習ひ性となり、毎晩〳〵四疊半裡淺酌低唱を試むるでないと御飯が旨味しくなくなる。妻君を前に子供のいたづらを見乍らぐびり〳〵では物足らぬ、耐へきれなくなつては飛出すやうになり、用もないのに自分から料理屋に酒浸りにならないと歸られなくなり、十一時十二時と更けて歸るはまだしも、空しく細君を空房に泣かしむる者のみになつてゐるのは諸會社重役連の常態ではないか。

斯樣な事は疑もなく甚しき藝妓の禍であるが、更に又非常に智識の缺乏を來す。十一時半頃歸つて朝迄寢る、次の朝まだ夕の醉が覺めやらで睡魔頻りに襲ひ、頭ものうく氣勞れて何事も出來ない。況んや讀書などは殆んど全く廢して、辛うじて新聞を讀む位のものに止まる。これでは日本の實業家が

文明國の激しい競爭に伍する事は愚か、追隨してゞも行けないのは無理はないのである。私は常にいふ、日本の實業家が藝妓屋入りをなし酒浸りになるから、智識の琢磨が出來ず、時勢に遲れるのであつて、日本經濟界の將來が氣遣はしい西洋の商人に比べると實に甚しい懸隔がある。西洋に行つて否、日本に於ても常に見受くる事は橫濱あたりの商人が汽車の中に乘つてゐても乾度讀書して居る事である。而も其書物が如何なる種類の物であるかを注意して見ると、或は哲學であるとか、或は政治であるとかいふ類のものであつて、商人と雖も常に色々の方面に研究を怠らぬ。又宴會に出るにしても妻君携帶で出て行き內に居る時は大概七時迄には晩餐を終るから、それからは讀書の時間になる。殊に土曜日になると次は日曜だから尙精神を靜に修養をし、聖書を耽讀する。日曜の午前一ぱいは敎會に出て、十一時頃歸る、其日は所謂安息日で精神の安息を務むる。然るに我國の人達は土曜日の晚から日曜といふと料理屋と待合入の日課になつてゐる。平生の業日でも讀物をせず、土曜日曜は精神の破壞日となるといふ日曜の亂費をしてゐる狀態にあるのは何たる醜態ぞ。

□貯蓄の敵奢侈の參謀

實業家が如斯行動に出て居つては發達のしやうがなく、上の好む處下之より甚しきはなく、其結果犯罪の原因又は仲介となり、持逃げ費ひ込み、其他の刑僻に觸るゝ事となるのであるが、それ等が殆んど悉く藝酌婦に關係を有する事は、新聞の三面が常に證據立てゝゐる。藝妓といふ者に接すると人間は實に不思議な程愚劣な狂態を演ずる、乳母車に乘つて藝妓に曳かしたり、藝妓屋へ强盜の眞似をして這入ツたり、紙幣を撒いて藝妓に拾はしたり、十圓札を煙草の吸口にして飮んで見たり、正氣の沙汰とは思はれない事をやるが、其人が嘗ては堅い實業家であつて、どうしてそんなになつたらうと思はれる例はいくらもある。世に魔がさしたといふ言葉があるが、ほんとに魔でもさしたのだらうと父母が淚を流してゐるのを見ても、藝妓に接すると人間が變るのであつて、之が爲め實業界の罪惡が絕えぬ。否實業界のみならず一般世間が一樣に此病氣に罹るのであつて、政治家の罪惡墮落が待合場裡に於て行はるゝのを見ても分るのである。これは甚だ藝妓に就て重大なる點で、此點に於て藝妓は經濟界の攪亂者であり、貯蓄の敵であり、奢侈の參謀であるといふのである。凡ての奢侈、凡ての淫風は彼等から來る、藝妓は綾羅を纏ふて昻然として白晝滿都の子女を羨望せしめつゝ、大道を橫行してゐる。藝妓は流行の魁奢侈の參謀で、都會に於ては悉くとは云へないが地方に於ては奢侈は全く藝酌婦に胎まれる。藝妓と酌婦とは二つとも同じで、餘り步かぬのが酌婦、料理屋を巡つて步くのが藝妓に過ぎない。定着してゐるか流動してゐるかに過ぎぬ。行ふ處の事實は同樣であつて、これ等の女が徘徊してゐる爲め、地方の奢侈が一層誘發される。田舍のこんな町に一體何の必要があるだらうと思ふ樣な處に自働車がある。よく聞いて見るとこれがお得意は藝酌婦であるさうな、卽ちそれは藝妓が客を釣つて遠乘りするといふ需用があるのであつて、自働車會社が藝妓の分は取らない。藝妓が客を煽てゝ最寄の温泉や都會に行く。之を以ても藝妓は奢侈の參謀であり。惡風傳播の魁である事は疑を容れぬ。而して奢

侈はいふ迄もなく貯蓄の敵勤儉力行の仇である。

□藝妓は地方の繁榮を破壞す

奢侈が増進すれば貯蓄は日に衰ふ。多く世間の人は斯ういふ謬見を有つてゐる、藝妓が風俗を亂すのは貴説の通りだが地方の經濟の上から、地方繁榮の策として已むを得ぬなど〻警部などが青筋立て〻地方繁榮策の講義をする事がある。併し乍ら藝妓が地方繁榮どころか、其繁榮を破壞するものであつて、藝妓があつたらそれを除いてこそ始めて繁榮になるのである。それは露國に於ても酒を禁止した爲め事業が盛んになり、政府の富が殖え、人民の貯蓄が増加し、郵便局の資金が殖える。之を低利に貸出してゐるから地方は餘りに困らぬ之を數字によつて明示すれば、酒税は從來年額八千萬留であつたが、酒税がなくなつてから却つて所得税の上に一億三千萬留の増收を見、貯金に於て二億ルーブルの増加を見るに至つた。之れは眼前の事實である。

是に由つて之を觀るも斯かる淫靡の風が傳播をして、繁榮になるといふのは大なる誤りで、藝妓が流行つて景氣が付くのではない、景氣がよいから藝妓が流行るのである。而して藝妓が流行つた結果は衰微と成る。つまり世の人は原因と結果とを取違へて考へて居る。即ち景氣がよくなると近在から若い息子などが都會に入込む、而して浪費する、其結果は近村の疲弊となる、暫くにして蕩盡破産となれば愈々界隈の町は其影響を受けて漸く沈衰を來すのは明白である。輸出の盛んな處、桐生とか足利のやうな町で、輸出が盛んに出る時は藝妓がよく賣れる。之も原因結果を顚倒して考へてるので、何も藝妓の景氣がい〻から經濟界が活氣づくのではない、經濟界が活氣付いて來るから藝妓の景氣がよくなるのである。從つて其經濟界の活氣を藝妓の方に向けずして生産方面に向くれば更に經濟界は活躍するに至るのである。

□醜業婦の待遇を改めよ

斯く風敎上經濟上からも又敎育的方面からも甚だ憎むべきものたるは略申上終つた。茲に於て問題は藝妓を如何に處分すべきかにある。處分策として何人も第一に考へるのは藝妓を根絶するといふ事である。これも一策であらう。昔はさういふ樣な思ひ切つた事も隨分やつた、併し之は至難な事である。全然禁止するは容易な事ではない。けれども私は彼等に對する待遇を改むる事によつて殆んど自然に全滅を期する事が出來はせぬかと思ふ。今日迄の世人の待遇は厚きに過ぐる身分に相當すればよいが餘りに身分不相當である。彼等は疑もなく醜業婦であるにも拘らず、今日にては通常の良家の子女より一枚上の如くに思はれてゐる。さればこそ良家の女が眞似もするし羨望もするのである。途上偶々紳士が細君と令孃とを伴れて歩いてゐる時、向ふから二三人連れの藝妓が來か〻ると、妻君と令孃とはしりごみをして却つて藝妓輩に敬意を表し、彼等をして横行濶歩せしむるのである。社會は無意識的にではあらうが、確に彼等の待遇を誤つてゐる。

□一等國の二大汚點

日本は一等國である、文明國であると鼻高々と誇稱してゐるが、一等國としては二つの大なる汚點がある。外にもある

かも知れぬが先づ私の最も氣の付いたものは次の二つである第一は東京市中の如き處に汚穢屋の横行する事である。これは西洋諸國にない事であつて、一等國としての體面を汚損するものである。帝國ホテル其他へ泊まつた西洋人が自働車か馬車で市中を驅る『どうです歐羅巴にもないやうな町でしよう』といふと『え、立派な町ですな、併し唯一つ不快に堪へないのは汚穢の車の通る事です』と異口同音にいふ。そして日本に於て汚穢屋の通るのと雪隱の設備があれである間は一等國とは云はせぬといふのである。而して其の第二の大汚點といふのは醜業婦の跋扈であるといふ。醜業婦が白晝自働車を驅つてゐるのは實に日本に於ける二大汚點である。日本の藝妓は優雅であると表面に云ふか知らぬが、其實低い聲では踊を見ても眉を顰めてゐる。何としてもまだ野蠻だといふ。

此二つの事は一等國として最も恥づ可き二大汚點たるに相違ないと思ふ。それを我國民が優待をする、羨望をするやうな態度であるのは困つた風俗である。これは待遇の方法を改むるのが第一で、其方法の私の一番有効なりと信ずるのは、先づ彼等の業務に制限を加へる。酒席に出るといふ事は許すとしても、恰も話家や講釋師が出るやうに、彼等の踊なり、三味線なりが濟んだら歸らせるがよいのである。飯や盃の周旋は相當の女がある。決して藝妓が出る必要はない。必要なきに侍らせるのは優遇に相違あるまい。又一面は彼等に取つても墮落の元で、從つて男子のためにも亦墮落の元となる。人民の自主獨立を認めて居る以上、衣服の制限は困難であり無理かも知らぬが、それをせなくては賤業を卑しむ思想は起らぬ。せめて西洋の醜業婦位にしておけば、彼等に途中で逢へば恥しい位になる。美裝をしてゐるからこそ知つてゐるのが却つて自慢になり、良家の子女が道を避けたり、羨望したりするのである。

□景氣不景氣に非ず敬不敬の問題

服裝の制限は勿論容易ならぬ。まさか紺無地の着物にせよとも云へぬ。乍併よく考へると彼等には資本家といふ着物を供給するものがあるのである。資本家とは卽ち抱主である。彼は前貸をして多く子飼から踊りを習はせ三味線を敎へ、手練手管の秘術をも會得させ、商品として突出すのであるから若し之に資本家がなく、獨立の營業者とするなら、餘程の鼻下長が引掛るでない以上、さう彼等が美裝横行する事は出來なくなる。偶々金持がついて着物をこしらへて貰つてもさう長く續かない。資本主からの融通がないならなか〳〵四季の移り替へに大金を費す事は出來ないに違ひない。今の處では營業に組織があり、資本主が前貸をして種々の惡辣手段を講ずるのであるから、藝妓屋營業なるものを亡ぼして、藝妓自身の獨立の稼業たらしめなくてはならぬ。

待遇法のもう一點は、公會の席から排斥する事である。何んぞ況んや今日の如く嚴尊無比の大典に於て、滿身不淨の人間が手古舞の風俗をなし白晝大道を練るが如きは甚怪しからぬ事で、中には藝妓が出ないと景氣がつかないなどいふ者があるが、景氣は醜業婦などによつて左右し得らるべきものではないが、假りに景氣がつくとしても、御大禮を利用して景氣の道具にするといふなら不敬極まる話ではないか。

藝妓の服裝を脫せしめよ

廓清會評議員 法學博士 浮田和民

私も今夕の演說會の趣旨を贊して諸君に一場の話をする事になつたが、其意味に就て多少世間に誤解があるやうに思ふ。我々同人等は此大典に際して恰も一切藝娼妓が奉祝に與る事を絕對的に拒否し、之を禁止せん事を希望するかの如く思ふ者もある。此日丈は家に引籠つて居れ、一切出てはならぬといふかの如く思はれて居るやうである。之は私共の主張を誤解して居るものである。大典は萬民鼓腹して奉祝す可きであつて、何人の奉祝も排斥すべき理由はない。唯此際從來の如く『娼婦絃妓が人目を衒すやうな姿態を公衆の前に現はし、或は伍を立て列をなして大路を公行し』恰も御大典の一部なるが如き遣方を控へて貰ひたい。それを御大典に關する事務を取る處の人々が注意して貰ひたいといふ丈のもので、藝娼妓と雖も人間である、而して又日本國民である以上、相當の方法と相當の場所で賀するならば、寧ろそれは我々の喜ぶ處である。我々は啻に藝娼妓のみでない、此日は全國の乞食にも參與する特權を與へたいと思ふ。但それは乞食として參與して貰つては困る。紳士淑女の袖にすがつて哀憐を乞ふ樣な事をされては困る。我々は彼等に同情はするが、併し乞食は止めて貰ひたいのである。せめて此一日だけは乞食をせず、國民として人間として參與して貰ひたいと思ふ。此一日だけは乞食しないでも食へるやうにして、此日は其乞食の團體を離れて、等しく國民として參與の出來るやうにしたい。その如く此日丈は藝妓の服裝、娼妓の服裝、さういふ醜業者の姿をせずに、立派な日本婦人として淑女として奉祝して貰ひたいといふのである。

藝娼妓と一口にいふが、藝妓と娼妓との間に多少の距離はあらう。其の娼妓とても生涯人非人に扱ふのは忍びない。猥褻の醜行をしたものは、御大典に與らせぬといふなら、國會議員の如きは悉く與參は出來ないやうにならぬとも限らぬ。彼等の裡に藝妓を買はぬ者は少ない、三位中將悉く朝野を舉げて、果して何人藝妓を買はない者があるか。殆んど其貞潔を保證する事が出來る人はない位で、自分の娘でも安心して託する事の出來る者が見當らぬのである。して見ると嚴密に云へば大典に列する資格ある男子はなくなる譯になる。されば我々は殊更に朱に染んでゐるからとて彼等を排斥せんとするのではない。彼等の穢れたるは彼等を要求する男子あるが爲で、敵は本能寺にある。我々は彼等の境遇を憐れみ、彼等の爲めに救濟の方法をこそ講じたいのである。卽ち敢て彼等を侮蔑し、彼等を擯斥するといふ譯ではないけれども、兎に角、醜業の制服だけは脫がした方が、風敎上よりは勿論の事、彼等の面目のために、同情ある勸告であると信ずる。それと同時に、此場合に於て彼等をして醜業婦たらしめて置く男子の猛省を促がす爲に、敢て警告を世に發した所以である。

外人の觀たる日本の藝妓

廓清會理事　油谷治郎七

私が英國に滯在中に『娘』と云ふ日本の芝居が倫敦で演ぜられた事がある。その時非常に外人がこの日本の藝妓の論を戰はした。

その劇の筋道はザッと左の通りである。日露戰爭の際に或一人の男が將來を約した女と別れて戰地に出征した。かくてその後夫が戰場の露と消えたと云ふ報道があつた。許婚の夫の家は貧である。これから先きの父母の難儀が思ひやられる女は非常に悲哀の涙に暮れて居たが何等の思案も浮ばないので或僧を尋ねてその善後策を聞いた。その時僧の言ふには、『小我を捨て丶大我に生く』といふ。身を賣つて父母を助けよ、かくせば死せる夫も地下に喜ばんと云ふのである。彼女は此の言に從つて茶屋づとめをして居たが、其處に突然死んだと思つた夫が歸へつて來て彼女の孝養を賞め互ひに打ち喜ぶと云ふ場面であつた。

これを觀た一外人は大に感動して曰く『實に日本の娘は麗しい女徳を持つて居る。身を賣つてまでも親を養ふと云ふ犧牲的精神は西人の學ぶべき點である。藝者が自分の藝を賣つて親を助けるのは少しもやましい處はない。誠に美しい愛情の發露である』と。これは藝妓を純潔なものとして讃美した人達であるが、これに反對したものは日本の事情に深く通じたものであつた。曰く『否これは決して藝を賣るのではないそれは表面であつて藝妓の本職は肉を賣るにある。これは日本の吉原のそれと擇ぶ處はないのだから、女徳ではない。女徳それ自身を傷ずるものである。女にしてその生命たる貞操を賣るのは道徳上の矛盾である。これ位ゐ婦人の侮辱はない』

私はこれを聞いて日本人として赤面せざるを得なかつた。我々はこれに對して一言の答辯も出來ない程に藝妓が醜業婦たる事が確な事實であるを悲しまざるを得ぬ。東洋思想の特長たる犧牲的精神は、如斯矛盾と悲劇を惹起して居るのである。『婦人の美徳』はこの藝娼妓の爲に泣いて居るのである。

藝妓が賣淫であるか否かは私が語らずとも、否日本人が語らずとも、已に遠き外人がこれを觀破して居る處である。私はこれにより考へ、この神聖なる大典に際して、その藝妓の類が宴會の席上に侍るとか、市街を横行するの可否は、最早論議以外であると思ふ。例へば親の忌中に於いても、大體には遠慮しなければならぬと云ふ程嚴肅なる儀式に、彼等の遠慮し、愼しむべきは當然の事ではないか。況して社會を毒し、道徳の根柢を破るものをして、其跋扈に委する事は出來得べからざる事である。世界何處の國にか、女郎屋の主人の市會議員たり、國會議員たる處があるか。斯の如き野蠻時代の産物を除かずしては、國家の體面も文明の進展もあつたものでない。

御大典と藝妓問題（再び）

益富政助

（一）はしがき

私は前號に於て、今度の御大典に際して藝妓を出してならぬ理由十ケ條と、藝妓の三大罪惡を列擧して、公的祝會の主催者、司會者達に對して、注意戒告する所があつた。思ふに之等の諸氏があれだけでも、熟讀されて、藝妓が抑ゝ何であるかを、理解されたら、到底陛下に對し奉り、皇室に對し奉り、畏れ多くて藝妓のやうな賤業婦を引張り出して、御大禮の尊嚴を汚し奉るといふ樣な事は出來まじき筈である。

唯何分にも習慣の力は強いもので或は不注意にも、又候藝妓の跋扈を縱まゝにせしめて、神聖なる御大典をして、醜業婦の廣告手段に利用せしむるやうなることがないとも限らぬ。それ故に今一度前回に言ひ洩した所を書き足して、玆に最後の警告を與ふることにした。

（二）今日の藝妓はどうして出來たか

第一に言ひ度いのは、今日の藝妓といふものが、どうして出來たかである。

凡そ世間の習慣には私的（個人的）要求より起つたものと、公的（社會的）要求より起つたものとの二つがある。例へば食物に對する嗜好の如きは多く個人的要求の結果であつて、唯好きだから好きといふの外に、公共のために肉が好きになつたとか、社會の爲に魚類が好きになつたとかいふ者は、極めて稀である。處で、衣服になると、個人的の要求も勿論あるが、一方に於ては公的社會的要求の分子も隨分多い。殊に世が文明になるに從つて、衣服は社會的禮儀の必要品となつた。例へば今度の御大禮に就ても、御卽位禮參列者の服裝はこれ〳〵、賜饌の時はしか〳〵、又婦人の服裝は斯樣〳〵と既に定まつて居る樣な次第で、フロックコート、燕尾服、シルクハット、羽織袴等は自分の嗜好によつて之を定むるよりも、より多く公的要求によりて之等のものを用ゐねばならぬやうになつた。

要するに世間の風俗慣習には私的要求より生ぜしものと、公的要求より生ぜしものとの區別があるが、さて此二者中、何れを善しとするかといふ事になれば、私は其何れでも社會に害さへなくば差支はないと言ひ度い。但し、自分の私的慾求を滿足させる事が公やけに對して、害惡を醸すといふ事に成つた時、道德は之を容赦する事が出來なくなるのである。

さらば今日の藝妓なるものは、前記の二者何れの要求によりて生じたものであるか、而して、又それが社會的影響は

如何に、之が諸君と共に考へたい問題なのである。而して私は（恐らくは諸君もさうであらう）今日の藝妓を以て國家の必要に迫られて始めて生じたるものとはどうしても考へられない。疑もなく私的要求、就中最も賤しむべき性的欲求より生じたもので、而かも風敎道德上、許すべからざる害毒を社會に流しつゝあるものだと斷定する。（前號參照）

（三）藝妓は娼妓の現代化したるものなり

維新の際、凡ての社會的秩序が紊れて仕舞つた頃に於ては「醉ふては枕す美人の膝、醒めては握る天下の權、高樓傾け盡す三杯の酒、天下の英雄眼中に在り」などいふ歌に現はれて居るやうな亂暴狼藉を極めた時代があつた。實に怪しからぬ話ではないか、今は乃木元智氏が伯爵になつた事すら風敎道德上不都合といふのに、之は又天下の政治をば女郎屋（高樓）で大酒をくらひ、それに醉拂つて女郎（美人）の膝を枕に寢込むで居る位に心得て居た。斯樣に天下の政治を愚弄し斯樣に國民を侮辱して居た。而して今日の藝妓とは即ち其時代の產物であることを知らなければならぬ。

或は之を白拍子の流れなどゝ美化して考へるものもあるが（成程多數の藝妓の中にはそんなものも少しはあらうけれども）今日の藝妓の多數といふものは白拍子の流れではなくて、娼妓の變形である。明治の初年頃までは（尚其後も引續き數年前迄）大手を振つて女郎屋に上り、折花攀柳などと稱して女郎を弄んで、平氣で居たものであつたが、時勢の進步は漸く之が恥辱たることを知るやうになり、舊式の女郎屋では具合が惡くなつて待合となり、舊式の娼妓では世間體が惡いといふので娼妓變じて藝妓となつたのである。つまり節操ある藝妓の墮落したものではなくて、娼妓の向上したる者（斯くの如き言を用ゐ得べきやは疑問なれども）、娼妓が藝妓の形を取つた者、即ち、賣淫婦の現代化したるものである。思ふに藝妓の鑑札を願ひ出た時の其本人なり、抱主なり、周旋人なりの精神狀態を解剖して見れば、實に娼妓の鑑札をこそ、願ひ出づべき筈なのであるが、時の變遷と本人の虛榮とが因をなし、過まつて、若しくは世間を欺いて、藝妓の鑑札を請求したものである。

斯く藝者の性質を理解する時、斯の如き不潔不淨にして賤しむべき婦人を、淸淨にして純潔神聖にして尊嚴なる御大禮の奉祝會等に出すべきものか、出すべからざるものか、敢て判斷に苦しむ程の問題ではないではないか。

（四）どうして藝者が宴會に出るやうになつた

それから其の藝妓が、どうして公的の宴會などに出るやうになつたか。其由來を尋ぬると、益ゝ顰蹙すべき事實を見出す。即ち「醉ふては枕す」の時代に於ては政治家がそんな不埒千萬な考で居ても、之を咎むることも出來ない意氣地のない國民である故に、彼等は益ゝ善い氣になり、品行にかけて

は亂暴至らざるはなく、放蕩の限りを盡したものであつた。而して、そんな具合であるから互に自分の情婦（買馴染の藝妓女郎）を引連れて大道を濶歩もするし、友人三伍相會すれば自慢顔に己が買馴染の娼婦を連れ出して酒の酌をさせ戯るるのが例であつた。既に三五人の間に出れば十人二十人の場合にも出らるゝやうになり、十人二十人の場合に許された事は百人二百人の場合にもゆるさるゝといふやうな譯になつてさてこそ、今日の如く、如何なる宴會にでも藝妓が出るやうになつたのである。要するに矢張り最初は性的慾求より生じたるものに外ならぬ。だから、藝妓が宴會に附隨するやうになつた沿革を少しでも考へ、此風習が如何に劣惡な歴史を有するかに思ひ至れば、紳士淑女の口からして『藝妓なしには宴會が出來ない』などゝ、臆面もなく言ひ出せた義理ではないのである。

（五）『藝妓を出さねば酌は誰にさすか』

それから又宴會に藝妓の必要の主張さるゝ時には、何時でも、酒と結び付いて來る、卽ち全然酒なしの宴會といふものは、今日においてまだ期待されないのを口實に、『藝妓を出さぬとなれば『酒の酌は誰がするか』といふ事を、さも力ある論據であるかの如く、大變な權幕で反論をする人がある。之に對し加藤弘之博士は「男子のボーイで澤山ではないか」と言つて居られる。我々も亦然と信ずるものである。實際に於て、此頃東京で開かるゝ政治的集會は大抵精養軒が多く、從つて藝妓を要せずして濟む。併しボーイの數には限りあつて今度のやうに一度に多くの宴會が開かるゝ場合には間に合はぬといふかも知れぬが、それに對する我等の答は頗る簡單明瞭である。卽ち何のことはない『自分で酌いだら可い』といふのである。或は之を亂暴な極端なる言分といふか。決してさうでない。我等は今日迄幾多の宴會や園遊會に出席して其の出席者の多數が偖も自ら取り、ナイフ、フォークも自ら扱ひ、中には肉を得べく皿とナイフを持ち、酒を求むべくコップを手にして走り廻つて居る姿すらも見る。中には今少しは紳士らしく莊重な態度を持したらんにはよからむものをと、他事ながら氣の毒に思ふ場合も少なくない位である。要するに手足を持たぬ不具者でない限り、酌する人がなければ酒を飮む事が出來ない理由は斷じてない、よし又、日本流の宴會であつても、自分で酌いでグン〳〵飮み、又互に献酬の際を見て居ても、さした人が自ら酌人となつて酌いでやるのを見受ける事は數〻ある。若し夫れ、酒黨の言の如く、酒を以て相互の親愛を表はす機關だとすれば、人手を借らずに、手から手に渡し、献した人自ら酌する方が、知らぬ他人の汚れた女などに酌させるよりどれだけ親愛の情をより多くあらはすか知れない。要するに、藝妓なくとも宴會には事缺かぬ殊に嚴肅なる宴會には、藝妓は全然無用であつて、酒の爲に藝妓が必要だなどゝいふのは、所詮敵本主義である。故に取別け御大禮奉祝會の主催者は斷じて彼等を呼ぶべからず、藝妓は又た自らの分際を知り、遠慮致して、決して然樣な所

に近いては相成らぬ。

(六) 酒に藝妓はどうして結び付いたか

一體又どうして藝妓と酒との問題が今日のやうに結び付いて來たか。其由來沿革を知ると、更らに此風習が正に嘔吐を催すべき舊時代の遺物たる事を知るであらう。我等は今日の藝妓及其藝妓と宴會との關係は性的欲求の産物だと斷定したが酒又然りである。一體我國では能く『酒色』といつて酒と色とを二にして一のものでもあるかの如くに言つて居るが、恥かしい言ひ方である。恥かしい言ひ方ではあるが、兎に角酒と色とは事實に於て能く結び付いて居る。處で考へたい事は、酒に色が結びついたのか、但しは色に酒が結び付いたのかといふ問題である。而して世間の事實に照して見れば色に酒が結び付いた事實の方が多いのである。卽ち酒に對して女を引いて來たと云ふよりも、女に對する性的欲求を滿足せしむるために、酒の力を借りるのである。「美人に酌がすれば酒が甘い」といふ、其時既に彼は酒を味つてるのではない、女を味つて居るのである。兎もあれ性的欲求それが主であつて酒は其從であり、客である。劣情滿足の方法手段である。それ故に性的欲求を主とする場合であつたら、藝妓に酒を結び付ける方が都合がよからう。けれども酒が主である場合には、其の酒に藝妓を持つて來て結びつけるといふのは、實に恥かしい事、自から侮辱すると、思はざるの甚だしき事どもである。

(七) 神酒の酒にして酒色の酒に非ず

況んや今度の御大禮奉祝會に用ゆる酒は實に神聖なる奉祝の酒である。「酒色」の「酒」でなくて「神酒」の「酒」である。我等が之酒に對する觀念は大嘗會に用ゐさせ玉ふ黑酒、白酒と同樣に考へて、之を尊とく嚴かに聖なるものとして用ひるこそ、最も然るべき事であらうと思ふ。而して黑酒白酒は如何にして釀造されたものであるかを思へ。之は悠忌主基の兩齋田から收穫された新穀を以て作られたるものである。而して悠忌主基に就て見ると、其言自身が「不淨を忌み」又「謹しむ」の意であるのみならず、此田植に働いた女は所謂早乙女で純潔なる處女でなくてはならぬし、其他耕作から收穫に至る迄「秡へ玉へ潔め玉へ」の式をして、一點の汚れをも入るゝを許さず、之に奉仕する諸官より、田植稻刈の人々まで、毎日心を清め、身を淨めて從事致し、已に出來上りたる米をば京都に運ぶにも、鐵道院では態々白木造りの特別車を新調して之を以て其新穀を運んだ位である。而して杜氏は亦齋戒沐浴此清淨なる新穀を以て釀造したのが卽ち黑酒白酒である、以て此神酒の性質を知るべし。然り而して御大禮に際し、苟しくも陛下の萬歲を壽ほぎ、皇室の御尊榮を祈る誠意を有するものは、奉祝のための酒を飮むに當りても須らく此白酒黑酒を戴くやうな敬虔な精神で飮むべき筈である。然るに何ぞや其御酒を戴くに酌がなくては飮めぬとは何たる

我儘ぞ、況んや其酌人として不潔不淨にして下賤極まる醜業婦をして酌をせしめねばならないとは抑もどんな心得であらうか。我々はどうしても狂氣の沙汰としか思へぬ。若狂氣にあらずとせば、皇室に對し、陛下に對し、故らに不敬の罪を犯す不所存者と斷ぜねばならない。附言す、香川、愛知の兩縣知事にして、其田植女には純潔なる處女を選み、其奉祝會には醜業婦を侍らしむるが如き事あらば、之れ實に知事の責任問題であると思ふ。要するに、藝妓を主とする場合には兎も角、苟くも酒を主とする場合には、藝妓との關係は斷じて之を斷つべし。況んや此度の場合の如き、酒と曰ひながら最も神聖にして尊嚴なる神酒として酒を戴く場合には、是非共之を引離さなくてはならぬ。斷じて之を共にしてはならない我等は呉々も警告する、奉祝の酒は「神酒」の「酒」であつて「酒色」の「酒」ではない事を。

（八）先帝の御誓文に基くべし

我々は國粹保存論者である。國家の精粹は飽迄之を保存せねばならぬ。併し乍ら國家の陋習は之を全く反對に、是非共之を打破して進まねばならない。先帝五ヶ條の御誓文に所謂『舊來の陋習を破り天地の公道に基く事』が必要である。之ありてこそ文明の進歩あり、國に發達がある。處で酒と藝妓（醜業婦）宴會と藝妓（醜業婦）とが常に結び付いて居るといふ今日迄の風習は、言ふ迄もなく我國の精粹ではなくて、「舊來の陋習」である。否、陋の最も陋なるものである。そのこれあるが爲めに外國の侮どりをも受けて居る程の弊風である。然らば即ち我々は極力斯かる陋習を打破せねばならぬ。而して今は之を打破するに最も善い時期であり、機會ではないか。實にや今は現狀打破の時代なり。之を山本内閣倒壞の歴史に見、近くは大浦内相瀆職事件に見よ、更に乃木伯爵問題に見よ、之等の事は從來の慣習に從へば、何でもない事であつた。軍艦嚙りの事實そのものが、何も山本内閣時代に始まつた事柄ではなく、從來からして行はれた事で、大抵の人は皆之を知つて居た。けれども過去に於ては問題にはならなかつた。其事が、此頃に於ては問題となつて、既に解決を附けた。大浦問題でもさうだ。恐らく大浦氏自身之をば左程の罪惡とは思つて居なかつたであらう。何となれば歴代の内閣が今日迄此手を使つて來たのだから。林田翰長は只從前通りの事を此内閣でもやつただけの事、彼に取りての新業でも何でもない。

即ち、今日迄はそれが當り前のやうにせられて居た。少なくとも從來はゆるされて來たのだ、けれども今日になりては如何、以前に於ては當前の事でも、今は當前でなくなり、大なる政治道德上の大罪惡と認定せられ、國民攻擊の矢面に立たねばならぬことに立ち至つた。乃木伯爵問題は如何。若しこれが以前であつたら「聖旨」だとあれば、それに對して民間に於て何等の苦情があるべくもなく、却つて不敬事件をかつぎ出されて、反對にどんな目に會つたかも知れぬ。併し今日は時世が全く一變した。以前はどうであつたらうと、今

は不都合は飽迄不都合許すべからずといふのである。

因に曰ふ、我々の眼から見れば寧ろ犬養國民黨總理が曰はれし樣に、今度長壽者に賜はるといふ天杯問題こそ内閣の責任問題として問ふ價値があると思ふて居る。露國の酒に對する態度を見ても、英國の酒に對する態度を見ても、獨逸の酒に對する態度を見ても、將又米國の酒に對する態度を見ても、今時の世の中に酒を飲む器具の盃などをこしらへて、之を國民に頒つなどの如きは極めて舊式の思想で、恐らく何れの文明國にも其例を見る事は出來まい。私は乃木伯爵問題より寧ろ此方が内閣の責任問題だと思ふ。

要するに、此頃の時事問題を見ても、如何に今日諸事革新の氣運が漲つて居るか、現狀打破の精神が緊張して來て居るかゞ分るではないか。諸君よ、『舊來の陋習を破り、天地の公道に基くべし。』我等は力を極めて凡ての陋習を打破らねばならぬ。今は特に其時運に會して居る。

(九) 藝妓の眞の同情者は誰ぞや

最後に私は、これまで藝妓許り惡く言ひなして來たが、其に就て誤解なからんやう今一言を附け加へねばならぬ。私は是迄品物の詮議ばかりをして來た。品物の詮議をする時に、惡い品物を惡いといふのは又已むを得ない。併し品物自身のためには實は氣の毒である。何となれば品物の惡いのは品物其自身の責任ではない。其後ろに其品物を惡く作つた惡大工がある、又其惡品なるを知りつゝ之を賣り捌く奸商の罪惡が潛んで居る。其故我々は惡しき品物を惡むより之を惡く作つた惡大工、其又惡品をば人を欺いて賣り付けんとする奸商を責めねばならぬ。

抑藝妓なる惡品は自からにして出來たものであるかといふに、決して然うではない、全く惡大工の惡知慧で製造されたものである。奸商の贋造品である。

孤兒院經營者の談によれば、女の孤兒にして容貌の奇麗なのといふものは殆んどないといふ。然らば事實容貌の善い孤兒といふものは全くないかといふに、さうではない。そんなのも澤山あるが、そんな娘は直に藝妓屋や又は藝妓屋相手の人買ひの手に取られて仕舞ふとの事である。即ち今日の藝妓なるものゝ多くは、所謂子飼であつて、金魚屋が他日金を儲くる目的で金魚を飼ふやうに、初めから賣物にする目的で之を飼養して行くのである。アヽ何たる悲慘の子ぞ。

實に藝妓自身は憐むべき奴隸である。金の鎖に繋れて、我儘氣儘に引き摺り廻されて居る奴隸である。その抱へ主なる者は即ち其奴隸使である。アヽ憐むべき奴隸よ。我等は今日の藝妓が自由を有せぬ奴隸たるを知る時に、實に萬斛の涙を流さゞるを得ないのである。然り我等は憐れむべき藝妓の同情者である。故に彼等を救ふべく今日迄も努力して來た。今後も更に彼等の救濟のためには出來得る限り力を盡す積りなのである。我々を藝妓の敵でゞもあるかのやうに思ふは大なる誤解である。それ故藝妓達は知らなくてはならぬ、憖ひ御身等の贔屓らしく言ふ者は、實は抱主と同樣御身等の生血を吸ふ處の者であつて、御身等の廢業を勸め速かに正業に復せんことを望んで居る我等こそ藝妓の眞の同情者であることを。

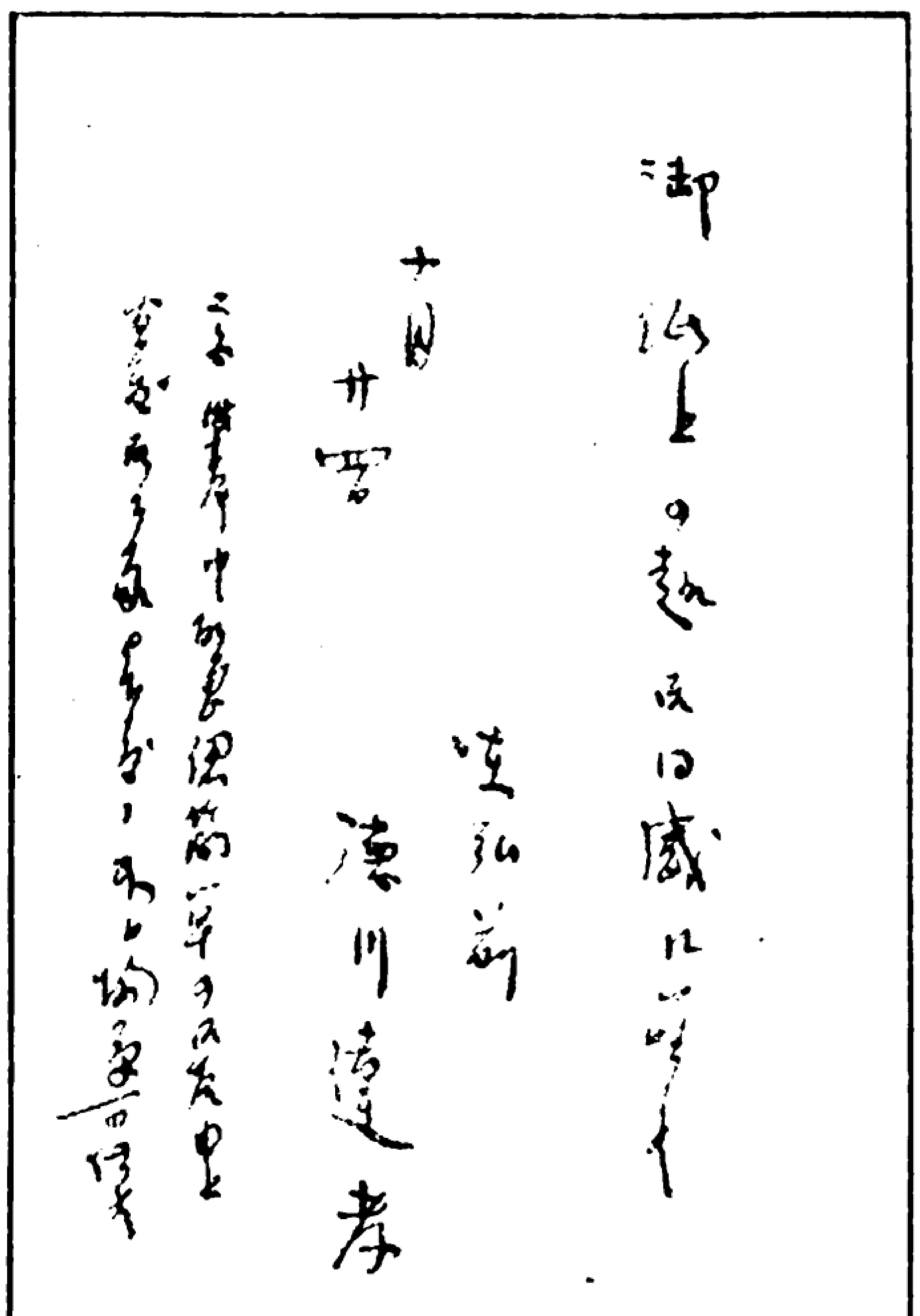
論より證據、藝妓必要論者が何處に御身等の救濟機關を設け

て居るかを思へ、彼等は餓へたる鷲の如く、只肉あり血ある間のみ之に群がる。御身等の肉を嚙み盡し、御身等の血を吸ひ盡した時、屍とし之を捨て又顧みないのである。愛する御身達よ、よく〳〵考へて見られよ。而して今の境涯より免れて、純潔の生涯に入らんと志さば直ちに我廓清會に、又は救世軍に又は矯風會に來り投せよ、私達は身を粉にしても御身等を救ふべく努力するであらう。

(十) 藝妓問題は奴隷問題也

之を要するに、藝妓其ものを惡くのみ言ふのは決して我等の本意ではないのである。私は其惡大工こそ正義人道の敵であると信じて居る。殊に孝を以て國民道德の基として居る國風を幸ひに、親權を以て、其子女に(今日の藝妓は多く抱へ主の養女になつて居る。)不道德を强ゆる抱主こそ大に鼓を鳴らして責むべき不埒者であると思て居る。然し乍ら、惡大工、奸商の罪を問ふ前に、眞實に、それが粗惡品である事を證據立てなければならぬ必要ある意味に於て、斯くは藝妓自身の詮議をしたのであつた。而して、それも、今度の御大禮が餘りに神聖にして尊嚴なるが故に、過まつても、其神聖を犯し其尊嚴を傷くることなからん爲に、眞に已むを得ず、之を言ふたのである。

ア、藝妓問題、何ぞそれ外形の華かにして、實質の悲慘なるよ。吾人は茲に至つて論鋒を一轉し、寧ろ奴隷問題、人道問題として之が解決を天下の志士仁人に訴ふ。而して之は人人の思ふやうに何も解決に困難なる問題ではない。何となれば奴隷問題は要する處奴隷使の問題である。而して奴隷使用者は全國で僅か二萬五千許りしかない。之を全國民五千萬に割當ると僅かに二千人に對する一人ではないか。卽ち二千分の一に過ぎぬ。一人の正義を唱ふるの士あれば、能く貳千人の不正義の徒を征服し得べし。孔子曰く『自ら省みて縮くんば千萬人と雖我往かん』況んや貳千人の正義の士を以て一人の不義者に當るに於てをや。是れ實に鐵を以て鷄卵を擊つに等しいではないか。

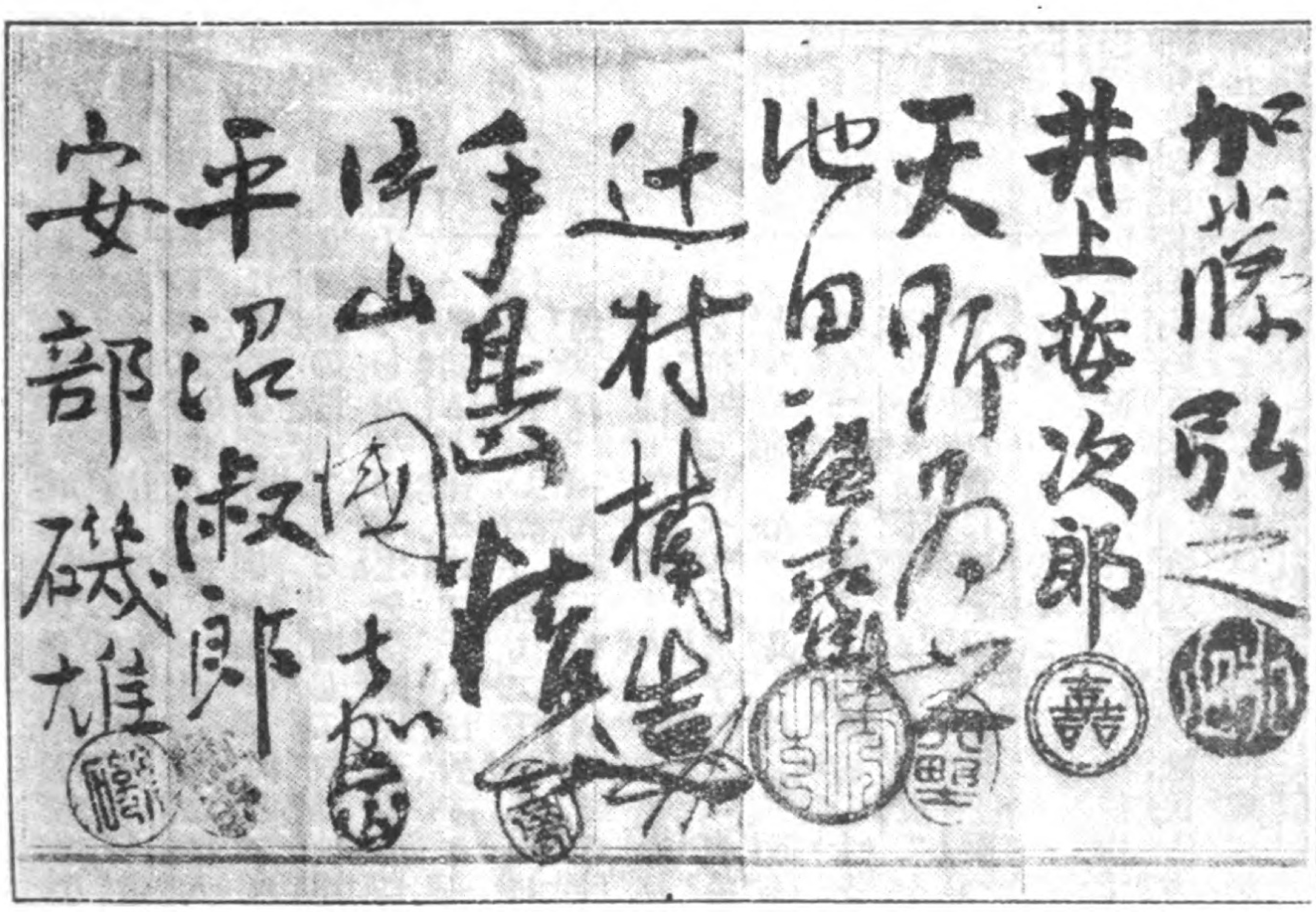


四千萬を以て、四億の支那を破り、五千萬を以て一億六千の露國に打勝ちたる日本民族が五千萬、否六千萬の國民の力によりて貳萬五千の不義の徒を夷ぐる能はざるの理何處にかある。況んや我等は正義のために、正義の後援により、正義の戰をなしつゝあるに於てをや。嗚呼正義の士よ進め、進め！進軍喇叭の聲響聞すや進め〳〵進んで此人道の敵を滅ぼせ、かくて慘しき奴隷問題を解決せよ。之最大の御大禮記念事業である。

國民奉祝心得方警告書

謹啓　此に卑見を陳じ賢考を煩し候は別儀にも無之、近く舉行せらるべき　今上天皇陛下御卽位の大典は御一代曠絶之盛儀天人共歡四海同慶の嘉會にして苟も生を我帝國に享くる者誰か全幅の誠意を獻げて　陛下の萬歲と皇室の隆昌を仰望拜祈せざらんや。然れども此慶意を發現するの形式に於て事態を解せざる者或は歡喜の極禮の中節を失ひ、社會に不良の影響を與へ、延きて大禮の尊嚴を汚し奉るに至らんも知るべからず、此點に於て豫め世人の注意を喚起するの要ありと愚考仕候。此等の事若し過慮に屬して不用に涉り事實に此憂なしとせば眞に一國の幸に候。

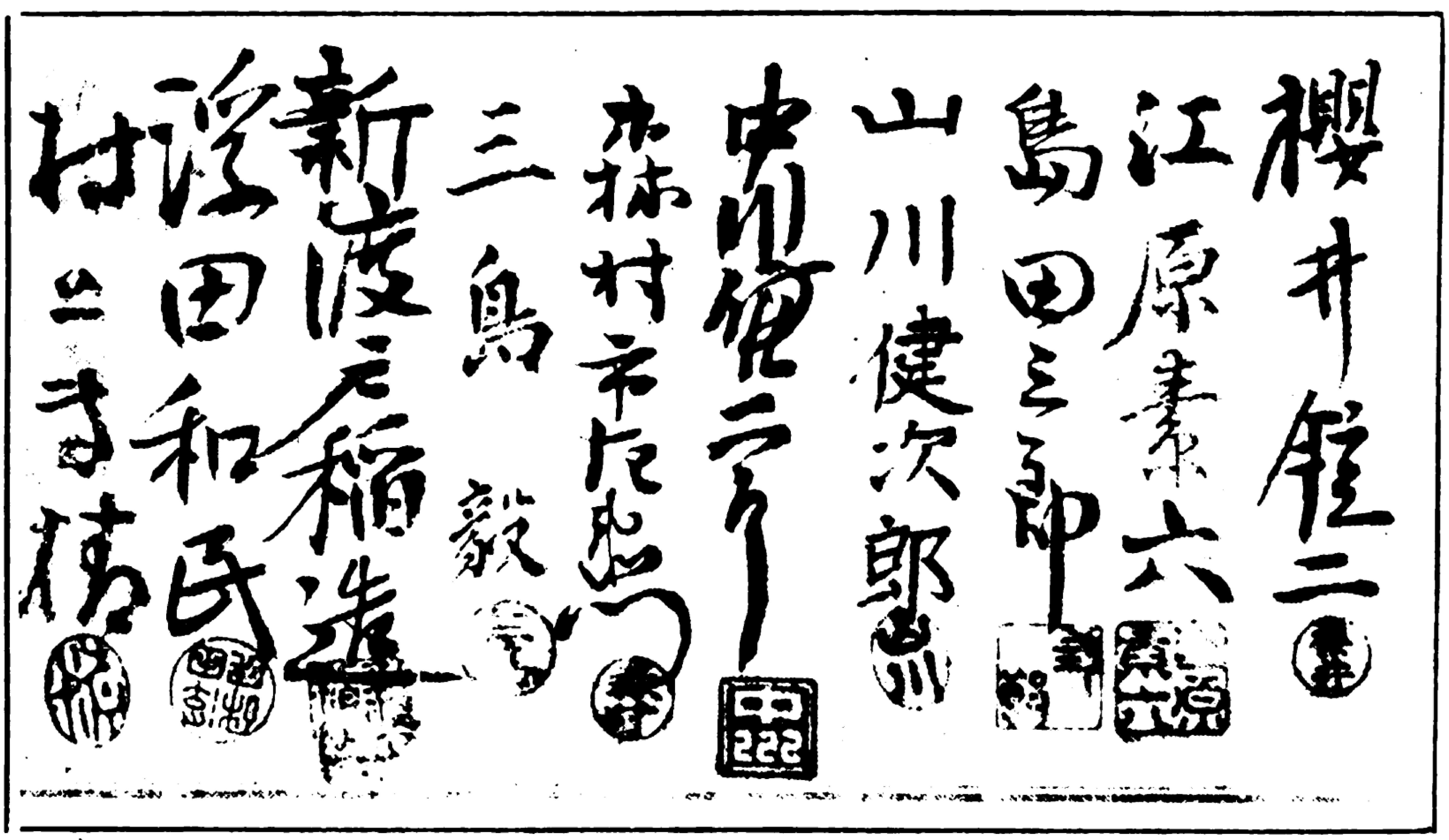
來る十一月に舉行せらるゝ大典の御次第は之を公表せられず、僅に新聞其他に洩れ現はるゝも私報に屬するを以て民間私人の確知する能はざる所に候。されど之を新古の典籍に考へて其例儀の一端を仰ぎ窺ふに、其期に先ちて御大禮の舉行を伊勢の大廟及皇祖の山陵に奉告せられ、御卽位式次第目中には特殊の掛りありて燒香を行はる。是れ此儀の舉げらるゝ事を天に告げらるゝの意なり。又大嘗祭は御卽位式の行はれたる事を皇祖皇宗の神靈に謝告せらるゝ御一代唯一の大祭なり。之を通して鑒み奉るに御卽位前後の御式は神聖の盛儀なりといへる要旨を以て終始せらるゝ御趣



本文は下に揭げたる二十氏（内原田助氏を缺く）が各方面に贊同を求めたる手紙の原文也これに對する朝野諸名士の回答は次頁以下にあり。

意と拜察せられ候。
斯くの如く古來上に在りては奉告と祭祀との大旨趣を以て舉行せらるゝが故に下に在りても亦敬虔の心を以て盛儀を祝し奉れり。即ち是等御儀式の當日に於て京師の市民家を守りて敬意を表し民戸烟を揚げざりしと承る。時代に制度の殊あり民風に古今の別あり炊煙を揚げざるは祝融の災大禮を妨ぐるを畏るゝに在りとせば今日必しも此に至るを要せざらん歟。然れども其外形の變化に拘らず敬虔の精神謹愼の心術は上記の公儀公式と相對して民間祝意の表章にも缺く可からざる儀と存候。
大に民意を容れ民情を重んぜらるゝ今代に於て、上下同慶共歡協樂は時代の精神に適すべしと雖、和而不流樂而不淫の古言は敬虔なる祝會に適應すべき要旨なる可しと存候。故に從來他の祝會に往々見るが如く、或は娼婦絃妓の流が此大典を祝するの會日に人目を聳す姿態を公衆の前に現はし、或は伍を立て列を爲し大路を公行し、或は彼徒をして紳士淑女と交伍し以て公會の饗宴を助けしめ、是を以て歡樂を極むるの擧と爲すが如きは今回の祝會に於て之を斥け彼等をして自ら遠慮せしむることは大典擧行の本旨に適應する次第と思量致し候。
此儀を擧て之を世に警告致し度此に其贊同を願上候。敬具。

大正四年十月十二日



奉祝と藝妓問題に就いて輿論の嚮ふ處を見よ

□權威ある社會中樞四百名家の意見□

（いろは順）

樞密院・宮內官・外各省之部

侍從次長伯爵　德川達孝

御紙上の趣御同感に御座候
二白供奉中取急ぎ認め簡單の御答申上
宜しく御了承被下度候。不日歸京可致候。

前內大臣兼侍從長公爵　德大寺實則

拜啓陳者今回の御大禮に就て民間奉祝云々の項に就ては贊成致候。依て申し進候。敬具。

東宮御學問所總裁元帥海軍大將伯爵　東鄉平八郎

警告の御趣意至極贊成す。

大禮使長官侍從長公爵　鷹司熙通

贊成。

樞密顧問官子爵陸軍中將　高島鞆之助

御趣意贊成仕候也。

樞密顧問官海軍中將子爵　中牟田倉之助

贊成。

帝室林野管理局長官　南部光臣

贊成。

宮內省圖書寮頭兼諸陵寮頭理學博士　山口鋭之助

御趣意大贊成。どうぞ御盡力を願ひます。紫宸殿大前の儀で、燒香の式を行せられることは、明治天皇の御卽位のとき廢止となり、此度も行せられぬ筈と心得て居りますから、御注意まで申し上げます。

內大臣祕書官長帝室博物館總長　股野琢

大贊成。

樞密顧問官子爵　福岡孝弟

贊成。

鐵道院副總裁　古川阪次郎

警告文の御主意至極御同感にして、國民一般其趣旨の通り謹て慶意を表し度存候。茲に御贊成の意を表し尚御盡力に依り御趣旨の貫徹を希望仕候。

樞密院書記官長　有松英義

同感大贊成。大禮を當込、酒稅增收を豫期する諸公より、異議を唱へられざらんことを切望す。

樞密顧問官子爵　清浦奎吾

御卽位大禮奉祝に關する趣旨は至深贊

成致候 敬復。

海軍次官 海軍中將 鈴木貫太郎

贊成。

師團長 司令官 之部

吳鎭守府司令長官 伊地知季珍

御申越の御意見贊同仕候。實行に就ては考慮を要する儀と存候。以上。

函館要塞司令官砲兵大佐 岩倉粂雄

御申越の御主旨に贊成致申候也。

佐世保要塞司令官 陸軍少將 渡邊滿太郎

拜啓近々御擧行の御大典奉祝に關する御警告謹誦仕候、我國民たる者誠心誠意敬虔以て此御盛儀を慶賀し奉るべく浮華輕佻の行を戒むべきは申すまでもなき儀と存候。然るに小生事は不圖も御大典參列の光榮を荷ひ居り候間、折節任地より遠ざかり居り御警告の御趣旨實行上何等の感化を地方に與ふる能はざる次第に候へば假令貴趣意書に卑名御登錄被下候とも徒らに空名に止まり衷心安からざる儀に候へば宜敷御諒察被下署名の儀は御見合せの程願上候。敬具。

第十一師團長 陸軍中將 蠣崎富三郎

御申越の儀全然御同感、茲に御答申上候也。

第九師團長 陸軍中將 川村宗五郎

贊成。

鎭海灣要塞司令官 砲兵大佐 柳貫一

御申越の次第至極御尤と存候に付き爰に贊成の意を表し申候。

第十四師團長 陸軍中將 山田忠三郎

贊成。

對馬警備隊司令部長 陸軍少將 矢島岸太郎

貴會の御趣旨に對しては全然贊成仕候。

第十六師團長 陸軍中將 松川敏胤

拜復近く可被爲行御大禮の際國民の慶意發現の形式に關し贊同方御申越の趣了承仕候。然るに御主旨は御尤の樣被存候得共、之を世に警告相成今後如何に御處置可相成哉不明に付、茲に贊否何とも御答難致次第に御座候間御承知相成度候右不取敢貴答まで。敬具。

第十二師團長 陸軍中將 柴五郎

拜復 貴會の御發意贊同の至に存候間右御答申上候。敬具。

第一師團長 陸軍中將 仙波太郎

御敎示の趣意は中心より贊成に候。但し一般の人々をして自ら遠慮せしむる方法は十分御研究奉願候。世には隨分歡樂を極むるを以て祝意を表する者なりとの考を有する輩多く候。敬具。

府縣知事 內務部長 警察部長 之部

鹿兒島縣內務部長 服部敎一

贊成。社會の制裁を嚴にし風紀を維持するは最も必要と存し候。

愛媛縣警察部長 本間利雄

御大典の嘉會に際し敬虔なる祝賀を以て終始すへき儀御高見の次第全然贊同する處に有之、右卑見御同答申上候。敬具。

岐阜縣內務部長　豐島　愿

拜復、御申越の件其の趣意には至極贊成に御座候、右御返事迄。匆々。

高知縣知事　土岐　嘉平

御趣旨に贊同す。

山梨縣警察部長　長　延連

贊成。

巖手縣知事　大津　麟平

大に贊同仕候。

石川縣警察部長　大島破竹郎

御來示の件全然大贊成に御座候也。

茨城縣知事　岡田宇之助

拜復、御來示の御趣旨理想として斯くあり度と存候。唯現今の社會狀態に於て其實現は困難と存候へ共、御趣旨は至極贊成に有之候。右貴答而已。草々。

高知縣警察部長　和田　純

拜復、御申越の趣旨至極御同感に奉存候。

岐阜縣警察部長　高橋守雄

拜復、御大典奉祝方に就て御來示の趣至極贊成に候。不取敢右御答申上候。敬具。

朝鮮總督府警視總長　陸軍中將　立花小一郎

御來示の段以滿腔之誠意贊成仕候、右拜答迄。匆々。

石川縣內務部長　夏秋　十郎

拜見、御申越の趣、大體に於て贊成致候。

山口縣知事　黑金　泰義

貴會の御趣旨贊同候。精々御盡力十分の御成功祈る所に御座候。

三重縣知事　馬淵銳太郎

拜讀、御趣旨に於ては大體御贊成に御座候得共、一面に於て何人と雖此際國民として、奉祝の誠意を表するは當然の義たる事も忘る可からざる儀と存候。

山梨縣知事　添田敬一郎

御趣意の次第贊成致候。以上。

富山縣警察部長　齋藤　行三

御申出の『御大典を祝する會日に娼妓絃妓の流が人目を聳す姿態を公衆の前に現し、或は伍を立て列を爲し大路を公行し、或は公會の饗宴に於て彼等に之を助けしめ、以て歡樂を極むるの擧と倣すが如きは之を斥け、彼等をして自ら遠慮せしむること』に付ては大體の趣旨丈は贊同候、唯彼等自身遠慮せざる場合如何にして本件目的を達せらるる御見込にや現時社會の實情に鑑み和而不流樂而不淫の古言を娼藝妓にのみ守らしむることを得るや否や。況や廣く一般世人（男女を問はず）に之を格守せしめ得べきや否や、獨り之を一の道德律とせず進んで法律問題と爲し、單に前記の事項にのみ就き之を强制するの途有之や否や思て茲に至れば折角の御提案ながら、單に其の大體の趣旨に贊同を表するのみに不過して、未だ容易に其の目的を貫徹し難き件かと存居候。御提案相成候以上は結局目的貫徹の方法手段まで充分、御計劃相成候樣致度右申添候。

關東都督府警視總長　佐藤　友熊

拜復、御大典御擧行には、貴翰の趣旨

贊同仕候。

山形縣
内務部長　相良　歩

拜啓、御計劃の件頗る時勢に適切、大贊成に御座候。

佐賀縣
内務部長　岸本　康通

御來示の趣旨に贊同仕候。

山梨縣
内務部長　春藤　嘉平

貴會の御趣旨に贊同致候也。

三重縣
警察部長　三矢　宮松

拜復、御來論の趣敬承、娼婦が御大典の祝日に人目を聳す姿態を公衆の前に現はし、或は伍を立て列を爲し大路を公行することは絶對に無き筈と存候。紅妓が上の如き事をなすは多く人氣を賑はし、大典の景氣を添ふる事にあるもの〻如きも、大典の祝會に遠慮せしむるは贊成に候。彼徒をして紳士淑女と交伍し以て公會の饗宴を助けしむる如きは、吾人親ら之を避けて可也と存候。

要するに御趣旨固より結構に候へ共、娼婦紅妓も亦同じく陛下の赤子なり、獨り彼等の大典奉祝を禁ずべきにあらず、從つて彼等を遇すること所謂新平民の如くするも亦誤謬と存候。彼等の人格と職業とを認め而して御來示の趣旨を全うせられんことを欲するものに候。之を贊同の御挨拶と致候。

新潟縣
内務部長　平塚　廣義

肅啓、御大典に際し臣民の心得として警告、至極同感に有之候に付茲に贊同の意を表し候。敬具。

縣會議長・市長・市會議長之部

大阪市長　池上　四郎

拜復、本月十二日附を以て御大典に際し國民心得方に關し御高示の趣了承仕候。御趣旨の程は至極結構と被存候。先は右御回答申上度如斯御座候。匆々敬具。

前富山市長　井上　政寛

拜復、御申聞の御趣旨は大賛成に候。乍序申上置度候は、市役所内に宛御書信被下候は、小生儀今尚ほ市長在職のお積りに可有之候も去月退職仕候故御含置被下度候。其後同志の強制に因り唯今縣會議員在職に付、御笑可有之候。匆々。

福岡縣若松市長　石井　良一

拜復、御大典に際し、和而不流、樂而不淫の主意に大に贊同を表し申候。敬具

横須賀市會議長　石渡　坦豐

貴會の御主意に贊成仕候。

山形市長　林兎喜太郎

拜復、今回來るべき御卽位大典の奉祝會形式の義に付、御熱誠なる御書面に有之候處、御趣旨至極御尤の次第と存候に付早速御贊同申上候。

埼玉縣會議長　長谷川宗治

謹啓、御卽位大典に際し縣民奉祝方法の御趣旨は、滿腔の贊同を表する次第なり。苟も花柳社會藝娼妓輩が、奉祝僞誠を以て伍列を爲し、大路を公行するが如き斷じて許すべからず。

靜岡市會議長　伴野　欣平

今回御催の御主旨賛成の至りに候。

福島市長　二宮　哲三

拜復、特に排斥の要無之と存候。相當の方法を以て祝賀の誠意を表せしむべきことに致候方可然と存候。

高松市長　逸見常太郎

趣旨は同感に候へども、實行上餘程熟慮を要する問題と存候。

前廣島縣會議長　富島　暢夫

拜啓、本月十二日附を以て御大典奉祝に付敬虔謹愼を表すべく、縷々御來示相成候御趣旨、全然贊成仕候間可然御取斗ひ被下度、御答辭得貴意候匆々

豐橋市長　大口　喜六

御來示の件奉祝會等に風俗に關する如何のものを交へて餘興を助くる等の事を愼むべきの義、誠に御同感に有之候。右御同意申上自らも實行を期し可申、御答迄。早々。

盛岡市會議長　大矢馬太郎

拜讀、御申越の御趣意至極贊同を表し申候。

大津市長　小谷　政祐

拜啓、御大禮の奉祝御趣意に對し、御來書拜承、御贊同申上候間、宜敷御取計願上候。敬具。

小樽區長　渡邊兵四郎

贊成。

山形市會議長　渡邊正三郎

拜啓、御知照の御主旨至極贊成に御座候右樣取斗方盡力可仕候。敬具。

長岡市長　河島　良温

謹啓、高諭拜誦、贊成に御座候。敬具。

丸龜市會議長　龜井長太郎

拜復、本月十二日附御申越の趣了承、儘貴當方に於ても大に御同感に御座候。草々。答如此御座候。草々。

廣島市長　吉村　平造

御來示の御趣旨に對しては、至極贊同を表し居候のみならす、此意味の事を奉祝委員會等に於て繰返し陳述致しつゝあれども、何とも一般の意嚮往々之れに反するの傾あるは、深く遺憾に不堪と同時に自身の不德に慚汗致居候。

橫須賀市長　田邊男外鐵

拜復、御大禮奉祝に關する注意事項御協議の趣了承、至極御同感に有之、御贊成申上候。敬具。

小倉市會議長　田口八太郎

拜復、御趣意の儀は大贊成に御座候。拙者は娼婦絃妓の輩を平素祝宴に列する如きは、紳士として恥るものとの主唱者に有之候也。

前橋市會議長　高橋源之助

拜啓、本月十二日、市役所宛にて小生へ御照會相成候貴會の御旨趣、至極贊成に御座候。右回答迄。敬具。

青森市長　工藤　卓爾

拜見、御趣旨贊成仕候。匆々。

北海道々會議長　栗林　立朝

御唱道の趣旨、大贊成に御座候。尙地方に警告致すべく候。

大阪市會議長　山口房五郎

拜復、御申越の件に對し、此に贊成の意を表し申候。敬具。

福井市長　山品捨錄

贊同す。

淺草區長　山崎林太郎

拜復、和而不流樂而不淫との御趣旨當に今次御大典の際のみならず、至極結構に存候、之が實行細目の義、尊書にて詳悉難致、更に何等か御公表の次第可有之と推し其節平生の愚考も披陳、謹て御指教仰度存候。拜具。

鹿兒島市長　山本德次郎

拜復、御來意の趣敬承仕候。

筑前若松市會議長　松川敬次郎

拜啓、御大典奉祝に付御高見のある處御披攊相成敬承、此際敬虔の精神謹愼の心術を以て奉祝致し、苟も淫卑に流るる樣の狂態は深く愼まざるべからざる事と存候。右御贊成申上度得貴意候。敬具。

福島縣若松市會議長　前田兵郎

御書面の趣旨、至極道理と存じ、贊意を表し候。

函館區會議長代理者　松下熊槌

贊成。

奈良縣會議長　福本寅松

謹啓、御趣旨拜讀謹しんで贊成致すべく候。

鳥取市長　藤岡直藏

大正四年十月十二日附御發表の御趣意は最も同感に御座候。

島根縣會議長　福間貫造

肅啓、秋冷の候に御座候處諸公益々御清康奉恭賀候。陳者近く擧行せらる可き、今上陛下御卽位大典の御當日に際して、事態を解せざる者或は歡喜の極禮の中節を失はん事を恐れ、豫め娼婦藝妓の輩をして、紳士淑女と交伍して、狂奔する事を戒めらるゝ御趣旨には、双手を擧げて贊成致し候。乍併彼等も亦同胞の數に洩るゝ者にても無之、公許の職業に從事し公科の賦税を納入し居る者なれば、諸公に於ても之を奴隷視して排斥するといふ御意嚮にては之れ有る間敷と拜察致し候に就ては、御當日には嚴正に家業を休み一切酒席の招聘に應せず、深く敬虔の意を表して、上下同慶共歡の實を擧ぐる事に注意致す可く、前以て警告致し置き度存候。右御贊成と同時に微意申進候也。

大分市長　後藤喜太郎

拜啓、御大典祝賀に就て御懇示拜誦仕候。至極贊成に候。右御答申上候。敬具

靜岡市長　小森慶助

御申入の御趣意贊成に御座候。拜復。

札幌區長　阿部卯之八

御申越の御趣旨は時弊に痛切に當り居り、雙手を擧げて贊成致候。

下關市長　青木良雄

我等不敏にして御來示の趣旨篤と諒解致兼候間贊否を表明の儀御斷申上候。

日本橋區長　新居友三郎

御書面の趣旨至極贊成に有之候。

宮崎縣會議長　坂本重俊

拜誦仕候。今上天皇陛下御卽位の大典奉祝に付被仰越候趣、御同感に奉存候。先覺諸賢の御警告は國民をして猛省せしむるに於て多大の力あるものと存候。當縣下に於ても御趣意に從らしめ申度、右拜答仕候。敬具。

宇治山田市會議長　佐伯市太郎

御大典の奉祝に際し、賤妓の饗宴を助くる如きは御高見の如く斷じて不可なりとす。卽ち御警告の義至極贊成致し候。

盛岡市長　北田親氏

肅啓、今上天皇陛下御卽位の大典は御一代曠絕之盛儀にして我帝國臣民たるものは全幅の誠意を獻げ陛下と皇室の隆昌を仰望拜祈可致筋に有之候。而して吾人は最も崇高なる敬虔の精神謹愼の態度を持し、御式は神聖の盛儀なりとの深き感念を以て、民間祝意を表し申度候。但娼妓絃妓の流を聘し、大典祝賀の饗宴を汚すが如きは絕對に之なきを望む。右貴答候也。

前橋市長　木村二郎

拜啓貴會の御趣旨を贊同致候につき此段御回答申上候。

鳥取市會議長　木下義之

拜復、御大典祝賀に關し御高諭の旨衷心歡迎贊同仕候。何卒擧國一齊に勵行あらんこと萬祈の至りに不堪奉存候。匆々。

茨城縣會議長　島村次男

拜復、御大典に對する趣意贊成仕候也。

高崎市會議長　平井八太郎

拜復御來書大に贊意を表し申候間、可然御取計被下度候。匆々。

新潟縣會議長　平松遮那一郎

貴會趣旨大に贊成の誠意を表し候。

大分　平田吉胤

同感。

福島縣會議長　菅村太事

拜啓、御大典に關し御通牒の趣贊同の意を表し候。

中央諸名士之部

東京市電氣局長心得　井上敬次郎

拜復、本月十二日附を以て御回示相成候大典奉祝に關する萬民心得方の儀、誠に同感の至に御座候。拜具。

大審院判事部長　法學博士　井上正一

拜復、御來示の趣旨には御同感に付御贊同申上候。敬具。

帝國大學敎授　伊東忠太

御趣旨贊成仕候。

男爵　石黑忠悳

尊書敬讀、御會御主旨には全然御贊成致候。乍去此大典に對し娼妓の行列とか又之を聘して宴を助けしむるとかいふ事は萬なかるべく、藝妓の出るは園遊會などに酒食をすゝめる事はなきを保し難きも、地方の情況等一々之を嚴禁すとい

ふ事は實行如何と被察候。夫の考にて此大典に際したとへ賤業を營む者なりとも其の當日憂悶の心を以て大典を迎へ奉らしむるといふ事は、國民たる者に對し頗る察すべき又思ふべき處と存候故、其御主旨は今に始まらず常に御同意に候得共此際一會を設て其筋に建議するとか世に公に警告するとかいふ事は贊成不仕候也。

農科大學教授
理學博士　石川千代松

大贊成。

陸軍中將　原口兼濟

貴意贊同仕候。

帝國大學名譽教授
貴族院議員醫學博士　大澤謙二

贊成。

帝國大學教授
理學博士　丘淺次郎

御趣旨は極めて結構なることゝ存候。

帝國大學教授
醫學博士　河本重次郎

贊成。

農科大學教授
農學博士　横井時敬

貴書の趣至極結構の事と存候間、乃贊成の意を表し候。不具。

帝國大學教授
理學博士　谷津直秀

拜復、十月十二日附の封書今日拜見、小生も御申越の趣旨に大贊成に御座候。

貴族院議員子爵　曾我祐準

贊成仕候也。

理學博士　長澤龜之助

御申越の趣拜承仕候。御趣意は勿論贊成に候間よろしく願上候。草々。

巣鴨病院長
醫學博士　吳秀三

大贊成。

伯爵　柳原義光

拜復御趣意大贊成に御座候。敬具。

帝國大學教授
法學博士　山田三良

拜復、御來示の御主旨に贊成仕候。右御返事まで。

東洋大學教授
文學博士　福來友吉

拜復、御來示の御趣旨至極贊成に候。

衆議院議員
法學博士　小林丑三郎

單に大典を祝する會日に此等の賤婦を伍せしむる不敬且不可なるのみならず、一切の公會饗宴にも拒斥することに贊成す。

文學博士　幸田成行

御趣意謹みて誠心より贊同仕候。

貴族院議員
海軍中將子爵　肝付兼行

襟を正しうして贊成仕候。

醫學博士　志賀潔

御趣旨滿腔の誠意を以て御贊成申上候。

日本勸業銀行總裁　志村源太郎

贊成。

農大教授兼文部
視學官農學博士　澤村眞

拜啓小生旅行致居今日御書面拜見、御示の儀贊成に御座候間此段御返事申上候。

直轄學校長／府縣立高等學校長之部

東北帝國大學總長　北條時敬

拜啓、來十一月御擧行せらるゝ御大典の時期に際し、貴會御發意の趣旨に贊同致候。御回答如此候。以上。

東京高等蠶絲學校長　本多岩次郎

贊成

富山縣立藥學專門學校長　小野瓢郎

拜承、貴說の通と奉存候。

第八高等學校長　大島義脩

拜復、御趣旨は至極同感に候。風俗の改良は如何なる時にも不斷に徐に之を促すべきものと存候。一旦の場合に遽に之を企つるも功を收むること困難と存候。今次御趣旨を貫徹するには他に直截有功なる手段可有之候。多數の名を以て文書に依り警告を爲すは最上の方法には可無之歟と疑ひ候。趣意は贊成、やり方は不贊成。

京都市立繪畫專門學校美術工藝學校校長事務取扱　大森吉五郎

御趣旨至極贊成に御座候。

第七高等學校長　吉田賢龍

拜復、御申越の御趣旨至極贊成に御座候。敬具

金澤醫學專門學校長　醫學博士　高安右人

拜復、貴會の御趣旨誠に同感の至に有之候。早速贊成仕候間、何卒會員の末班に御加へ置被下度奉願候也

鹿兒島高等農林學校長　農學博士　玉利喜造

御高見至極贊成に御座候間、充分御主張被下度奉願候。敬白

長崎醫學專門學校長　田代正

御申越の次第贊成仕候。

岡山醫學專門學校長　醫學博士　筒井八百珠

拜復、御趣旨贊成致候。

第二高等學校長　武藤虎太

拜復、御來示の趣拜承、曠古の盛典たる御大禮式日各種の祝會に於て妓娼の徒をして饗宴を助けしむるを排するの件は至極御同感に御座候。不敢取貴答迄不悉

東京外國語學校長　村上直次郎

貴會の御趣旨至極贊成致候也。

奈良女子高等師範學校長　野尻精一

御卽位大典奉祝に際し、大禮の尊嚴を汚し奉るが如きことなきやう警告せられんとする御趣旨に贊同仕候。

秋田鑛山專門學校長　黑岩休太郎

拜復、御趣意贊成致候。右御答迄如斯に候。

大阪高等工業學校長　工學博士　安永義章

世に警告の件贊同致候也。

東京盲學校長　町田則文

拜啓、御來趣全然大贊成に御座候也。

東京聾啞學校長　小西信八

かねてよりかくあらまほしといのりしを、いかでいなまんめでたいくはだて

千葉縣立高等園藝學校長　赤星朝暉

御來示の旨衷心より贊成仕候。

盛岡高等農林學校長　佐藤義長

拜復、御來示の御趣旨は至極御同感に付、贊成致候。可然御含承被下度奉願候。

東京帝國大學農科大學長　農學博士　佐藤昌介

貴會の御趣旨、滿腔の誠意を以て贊同仕候。

第三高等學校長　酒井佐保

拜復、陳ば十月十二日附を以て御警告の件甚御贊成に御座候。此度御挨拶申上度如斯御座候。

東京高等商業學校長　法學博士　佐野善作

拜復、御趣意は大贊成に有之候へども其方法に就ては、大に考慮を要する點可有之と奉存候、不敢取御回答如此御座候。

東京音樂學校長　湯原元一

拜復、異存無之贊成仕候也。

第四高等學校長　溝淵進馬

御趣旨贊成に御座候。

神戸高等商業學校長　水島鐵也

拜復、御申越の御趣旨贊成に御座候。

東北帝國大學工科專門部主事　新保德壽

拜啓、御來書拜讀至極同感に御座候。

東京帝國大學法科大學長　法學博士　土方寧

娼婦藝妓の根絶は容易の事にあらざるも、總て公會の式場等に參列せしめざる樣に致候事は大に贊成

第一高等學校長　瀨戶虎記

拜復、御企劃の儀は國家風敎を發揮するに絶好の目論見と被存候。至極贊成に奉存候。不取取貴答迄如斯御座候。不一

銀行頭取・會社長之部

長野六十三銀行頭取　飯島正治

拜復御趣意の趣至極同感に有之候茲に贊成の意を表するため御返事申上候。

伊豫水力電氣株式會社長　井上要

敬虔謹愼の誠意を捧げ盛大の御大典を祝し度貴意全く御同感に御座候。

衆議院議員　今井喜八

本月十二日附御申越の儀御同意に御座候先づは御返事まで匆々。

富士紡績株式會社長　原六郎

拜見、總て大贊成。中に就き炊烟を揚げざる等の事は時勢の變化今日之を要せざるべきも市民家を守りて謹愼靜肅に敬虔の精神を表示せしめ度候。

横濱第二銀行頭取　原富太郎

御趣意勿論贊成に候。

富士水電株式會社長　小野金六

拜復御申越の趣意至極御尤の御義と奉存候茲に御贊成申上候。

横濱七十四銀行頭取　大谷嘉兵衛

拜復本月十二日附御申越被成し御趣意は老生に就いても頗る同感に有之茲に贊同申上候。

靜岡第三十五銀行頭取　尾崎伊兵衛

御意見に對し贊同の意を表し候。

川崎造船所長 川崎芳太郎

贊成。

名古屋明治銀行頭取 神野金之助

拜啓御芳翰拜誦仕り候處來る十一月舉行相成候御大典は國民として敬虔祝意を表白候事は申迄も無之、或ひは歡喜之極徃つて不敬に渉る舉動の恐も有之べく貴會に於いて豫じめ共に相警しこの趣意御發布相成候に付き贊意の如何問合を蒙り奉謝候。下拙大義には通せず候ても貴會御趣意は至極正當の事と贊同申上候。

盛岡銀行會社長 金田一勝定

拜啓、御趣意に對し兎や角御批評申上ぐる迄も候はず、拙者等大贊成に御座候御返事延引致し失禮仕候。右御答のみ。

浦賀關東銀行頭取 高橋勝七

贊成。

東京榮銀行會長 竹內綱

贊成。

日本石油株式會社長 內藤久寛

本月十二日附御照會の趣至極贊成致候。

兵庫縣農工銀行頭取 鳴瀧幸恭

拜啓御大典奉祝に際し御來示の趣は至極贊同する處に御座候先づは御答へまで

大分紡績株式會社長 第二十三銀行頭取 長野善五郎

貴會の趣旨に贊同致候。

東京府農工銀行頭取 中山佐市

大贊成に御座候御報知迄。

伊豫農業銀行頭取 村上半太郎

貴會の主旨に贊成致候。

東京瓦斯會社長 久米良作

贊成。

寶田石油株式會社長 山田又七

贊成。

長崎第十八銀行頭取 松田庄三郎

拜啓御大典に際し御發表の趣意に對しては貴會に御贊同致候。

東京電氣株式會社長工學博士 藤岡市助

贊成。

神奈川縣農工銀行取締役 福井直吉

拜啓御趣旨贊成。

東京銀行會長 越山太刀三郎

御趣意贊成。

日本銅管株式會社長 白石元治郎

拜啓今回之御大典祝會に關する御趣旨至極御同感に有之右拜答仕候。

東京海上保險會社長 末延道成

贊成。

高岡銀行頭取 菅野傳右衞門

貴會の御趣意に贊成す。

日刊新聞社之部

高岡新報主幹 井上忠雄

御趣意、同感に御座候。

秋田魁新報社長 井上 廣居

御來示の趣固より大賛成。

やまと新聞社 半澤 玉城

拜啓、御提唱の精神には至極同感を表し候。成るべく敬虔嚴肅の方法を以て大典を奉祝し且つ之れに依りて人心を更新し國民精神の緊張を促し以て國運の發展を促進すべき精神的一大轉回期たらしめん事切望に堪へず候。

函館新聞社

拜復、來意御尤もと存候。直に其の趣新聞紙上に摘記して世上の注意を促し候敬具。

中國民報社主 原 澄治

拜復、御主旨大賛成に御座候。度を逸して敬意を缺かんとする恐あり大に警戒を要する事と信じ候。不一。

北國新聞社長 林 政通

賛成。

因伯時報社長 西谷 金藏

復、貴會の趣旨に對し賛成の意を表明致候。

陸奥日報社長 西田 源藏

誠に御同感の儀に存じ謹んで賛意を表し候。

近江新報社長 西川太治郎

賛成。

長野縣中央蠶絲新聞社長 堀江起志郎

御高志素より御同感の事に候。而も態々御示しの段御熱誠感謝不禁候。乍延引拜答迄。草々。

京都新聞社長 堀江 純吉

大典祝賀に關する御警告至極御同感に候。輿論を喚起するには聊か時機遲れたる憾みなきにあらざるも一層の努力を以て主意の徹底を期し度きものに候。不取敢御答迄此に御座候。

臺南新聞社長 富地 近思

貴會の御趣旨を賛成いたし候。

佐渡毎日新聞主筆 栃内 吉胤

拜復。御教示相成候、趣旨頗る賛成、新聞にも御趣旨を掲載可致、將來共道徳振作の爲御奮勵の程祈候、草々敬具。

高知新聞社長 富田幸次郎

賛成

播磨毎日新聞社長 尾高 守

虔肅なる御書翰、謹みて拜誦、衷心賛同仕候。弊地方の官民に對しては、新聞紙を以て極力警告し、主張の貫徹に努むべく候。頓首。

福井日報社長 大島久米之助

拜復御申聞の趣旨至極賛同に御座候。

仰天社長 富山 建雄

拜復、貴會の御趣旨至極御同感に付、茲に賛成の誠意を表し候條不敢取御回答申上候。敬具。

松坂大正新聞社長 小川 茂雄
土居 光華

貴會の旨趣を賛成す。

峽中日報社長 乙黑 直方

十二日附貴諭の件滿腔の賛成を表し候

3—442

敬具。

大阪朝報社長　岡島松次郎

至極結構の御儀に有之謹而賛成を致候。

九州日の出新聞社長
長崎縣會副議長　神代　彦次

拜啓、御申越の件御趣旨賛成仕候。
敬具。

埼玉新聞社長　川上參三郎

仰の如く卽位の御大典は御一代曠絶の御盛儀に候へ者御喜び申上る庶民の至情自然御祭り騷ぎとなる事の餘儀無き事と存候。されば御趣旨には賛成仕り難く候。

島原時報社長　金森安治郎

拜啓御大典祝賀會等に藝妓參加排斥警告徹御主旨了承右御主旨は尊重すべき義と存候へ共乍遺憾賛同致し兼ね候。本問題に對する所見は紙上餘錄に發表候通りにて掲載紙御高覽に供し度送付候間右にて御了知被下度茲に不賛同の意を表し候。拜具

賛成。

中央新聞社長　吉植庄一郎

淡海新報社

拜復、滿腔の賛意を表し申候、弊紙一葉送付可申候也。

鳥取新聞社長　高橋　由藏

御來示の御主旨謹んで衷心より賛同仕候。

鷺城新聞社長　高橋　金治

拜啓、御來示の御趣旨に對し賛意を表し候。

北陸タイムス社長　田中　清文
主幹　神田　貞幹

御趣旨に對しては大々的賛成可仕候。敬具。

八幡新報社長　田中　隣藏

醜業婦を祝會に交へしむる如きは尤も不都合の極御高説に大賛成致候間是非御警告の勞を採られんことを切望の至りに不堪候。右御回答申上候也。

岩手毎日新聞社長　高橋嘉太郎

謹而、賛成仕候。

京都夕刊新聞社長　武藤　欽

御書面拜見、小生も同感に有之候。尙ほ貴門各位の御成功を祈上候。敬具。

米澤日報社長　椿　宮太郎

御賛同仕候。

佛教新聞社長　鶴見　立吉

拜啓、貴會の御趣旨同感の至に不堪、茲に賛意を表し御回答に及び候也。

對馬日日新聞社

御大典奉祝に關する醜妓排斥の擧誠に賛同の至りに御座候。

明治新聞社長　中野種一郎

謹而賛成の意を表す。併せて爲國家御盡瘁を祈る。

長崎新聞社長　中川　觀秀

御來示の趣至極御同感と存候。乍併、

當地方は到底容易に實行出來難く遺憾千萬に御座候。

日州新聞社長　野井槙太郎

拜復、御申越の御趣旨に深く贊同且つ之が實行の方法其の宜しきを得られん事を希望致候。

山梨日々新聞社長　野口　英夫

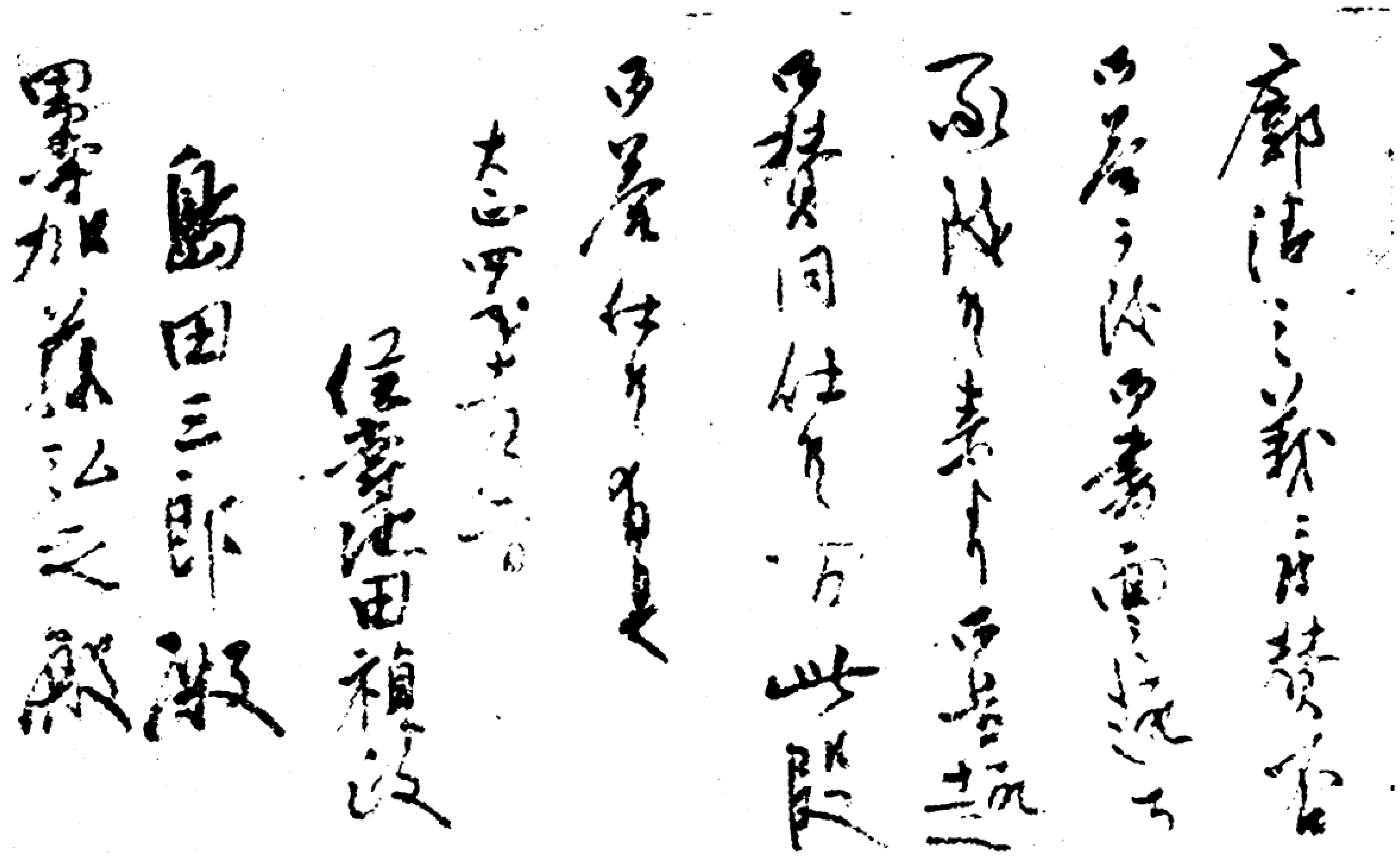
拜答御來示の趣旨小生同感に有之御贊同致候也。草々。

巖手民報社長　野村　古梅

前略、御計畫の趣旨至極贊成致候。

臺中　山移　定政

拜復、陳者御書面の趣大體に於て贊成致し候。當臺中の如き娼婦絃妓の流が此大典を瀆す如き催しは絕對に無之候。尚臺中にては此大典を記念し體育會を組織し、永遠に大典記念臺中體育會の名に於て、各種の體育を目的とする會を組織して臺中の年中行事とする事に決定相成居候國民精神の健全と體格の健全とは相俟ちて國家の基礎をなすと信ずるにより申候徒らにお祭騷をなす者或は言を構へて消極に流るゝものに比し、臺中の住民をして聊か誇とする處に有之候。當地に於ては御懸念の如き不潔分子無之點御安意被下度候。



近江民報社長　山中安太郎

謹復、御趣旨頗る同感に有之候へば乍延引御回答まで草々。

京城ソウルプレス社長　山縣五十雄

拜答醜業婦を公の宴會其他の公の會合に出さしむることは、いつにても絕對に反對致すべきことゝ存じ候。

全北日日新聞社長　松波　千海

贊成。

伊勢新聞社長　松本恒之助

御紹介の趣旨、贊成仕候。

静岡朝報社長　松永　常吉

貴文の御趣旨に贊成す。

福島新聞社長

赤誠を以て贊同仕直に全文を掲げ更に意見を披瀝仕候。

伊賀新報社長　房川綾之助

主意贊成に候。

釧路毎日新聞社長　古川忠次郎

拜復御趣旨の條々洵に結構の次第に御座候、御趣旨に依り本紙上に於ても夫々吹聽可仕候、右御回答まで申上候。

釜山　釜山日報社

拜復御來示の趣敬承右は御尤と存候。乍併其實行上には自ら緩急を要すべく又一面より申せば齊しく陛下の赤子をして奉祝の誠意を表せしめ度と思料致候。

播磨日報社
代表者　福田正俊

御會の御趣旨は吾人同志に於て、最も贊同する所に御座候。

京都實業新聞
社長　小西大東

尊翰謹で拜誦仕候、御誠意の程同感に有之候。近頃快心の御高聲に接し感謝此事に存候。吾が京都市に於ては這次奉祝の夜會を祇園新地歌舞練場（都踊興行場）に於て催す事と決定致したる旨に有事事情止を得ざるに因る義とは存候へ共御高説に反きたるの感有之遺憾且つ慚愧の至に存候。先者右御答迄如斯候。

二白廢妓問題に就ては小生聊か所感も有之逐て可申述候。

岡山商報
社長　小林峰吉

拜復、仕候各位の御赤誠奉感謝候。岡山商報は當時休刊致し居り候得共不肖峰吉御赤心を感謝謹而贊意を表し候敬具。

熊野毎日新聞
社長　榎本廣太郎

拜復、御申聞けに相成候大正會の御趣意、至極同感に御座候間贊成の義御通知申上候。早々。

大分日々新聞
社長　衞藤又三郎

拜復、御內示の御趣意小生に於ても至極贊成に御座候。右御回答申上候。

小田原實業新報
社長　遠藤寛太郎

御主旨拜誦以誠意贊成仕候。敬具。

筑後日之出新聞
社長　江口文吉

趣意書拜讀委細承知仕候。無論滿腔の誠意を披瀝して御贊同申上候。

筑後新聞社
主幹　赤星不羈士

謹誦、御大典奉祝に就て尊示の御趣旨は卑見亦符合する所に有之固より大贊成に候。實は淫風都鄙に吹き荒べる今日微力萬衆に抗し難きを歎し居り候、折柄忽ち天來の福音に接し會心の至に奉存候　敬復。

武相新報
社長　荒尾愼一郎

拜復御來示の趣至極同感に有之候間、本紙は極力贊意を表し一般地方人士に之れを唱導致し度取敢ず茲に御回答申上候。

追而御唱導文章は御寄稿次第掲載可仕候也。

世界新聞
社長　秋田清

拜復御來意敬承至極贊成に御座候。不敢取御答まで。不備。

京都日出新聞
社長　雨森菊太郎

謹啓御申越の御趣意に對し贊同の意を表し度右御報知申上候。

北海タイムス社長　東武

拜啓今般御紹介相成候御會今回の御企至極時宜に適したる義と存茲に贊同の意を表し候。

新總房新聞
社長　佐瀨熹六

拜復御示教の段御同感に奉存候。

越前毎日新聞社長 境 間電

御賛成申上候。

甲斐新聞社長 齋木逸造

御趣旨に賛同致候。

豐橋市 參陽新報社

御提案に對し早速御回答可申上候處、延引の段多罪、御趣意の點は賛成仕候。藝妓と雖靜肅にて華美に渉り目立つ如き憂なきに於ては一般人と共に奉祝するも絶對に咎むるに及ばざる事と愚考致居候。

鹿兒島新聞社長 柚木慶二

併し公會の席に於て藝妓として侍らしむるは絶對に禁じ度候、右不取敢御回答申上候。

横濱貿易新報社長 三宅磐

拜復御照會の件至極同感に御座候間宜敷樣御取斗可被下候。

御趣意のある所至極賛成に候。前段は姑らく措く事とし『彼徒をして紳士淑女と交伍し以て公會の饗宴を助けしめーんとするが如きに對しては小生も其の排斥に努むるを辭せず候。

呉公論社主幹 滿村良次郎

拜復、十二日付御照會の貴意拜見仕候、折角の儀に候も御意見に反對の意見を持し居り候故賛同難致候。詳細は紙上にて申述ぶ可く候、其の際は參考までに一葉御左右に呈上可申候。

福井日々新聞社長 三田村賀一郎

拜啓、秋冷之候貴會益々國家の爲御奮勵の段奉賀候、就は御趣旨の儀御賛成可致候間宜敷御願申上候。

上毛新聞社長 篠原叶

拜復今回擧行せらるべき御卽位奉祝の儀に付御申越の御趣意は至極同感に御座候、茲に謹んで賛成の敬意表白致候。敬具。

名古屋 新愛知新聞社

拜復、御照會の趣き賛成仕候、茲に回答申上候。

熊本日々新聞社長 芝尾入眞

御大禮に處する貴會の御趣旨弊社は大に賛成仕候。

徳島公論社長 志摩作平
同 主筆 小倉豐三郎

拜復、御照會の趣旨全然賛同致候也

東海新報社長 神保眞明

拜啓御來意の趣了承賛成仕候。敬具。

横濱通信社長 日比野重郎

這次の御大典は陛下御一代の御盛事なれば吾等臣民は莊嚴なる措置を講じ報恩の意を表してこそ大正の御代に棲生する國民たるに恥ぢざるの行爲と存候。然るに底事ぞ名を盛典に藉り鎭守祭の式にだも列するを耻づ賤業婦の手古舞を爲しし以て千載一遇の盛儀に汚點を添ゆるが如き事は以ての外と愚考仕候。其他虛禮に渉るか如き事は出來得る限り謹愼する方却つて忠君愛國の念を湧起せしめずやと被存候。右貴答まで申上候。

以上第一期締切の分

第二期分以下は廓淸會に對する回答の前號締切以後の分をも含む

毎日陸續として來る回答はいつ盡く可しとも見へず左は即ち第二期締切迄に到着したるものである。

尙頭書の官職名は未知の讀者の爲めに其何人なるかを明にせんがため記したもので、必ずしも官職の上から回答せられた譯でない。

樞密院 宮内省 外各省 之部

樞密顧問官 子爵 河瀨 眞孝

贊成。

司法省參政官 衆議院議員 田川大吉郎

大體に於て御趣意に贊同仕り候。

農商務次官 上山滿之助

御來旨の事は、方法程度の如何が重要問題に候間、此場合には贊否共に申上兼候。

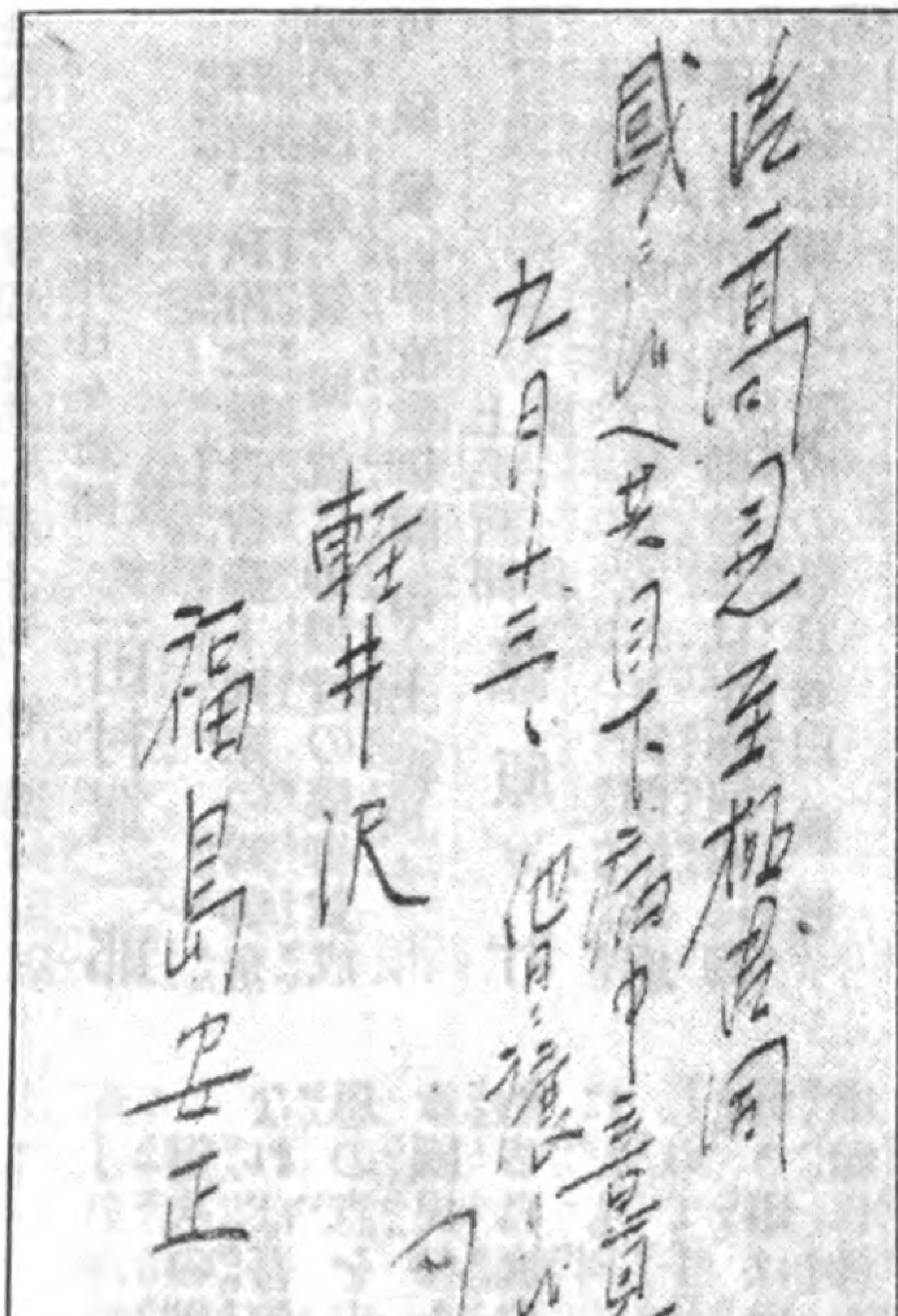
宮内省主馬寮頭 子爵 藤波 言忠

御主意贊成。

師團長 司令官 之部

第十七師團長 陸軍中將 本鄉房太郎

滿洲より歸岡唯今御書面拜見、御問合の件贊成に有之候。



第二師團長 陸軍中將 南部 辰丙

拜啓陳者。十月十二日附を以て御大禮奉祝心得方中、殊に娼藝妓の類に關する件了承致し候。右は御意見の通り贊成致し候に付御承知相成度候也。

貴衆兩院議員之部

貴族院議員 侯爵 池田 禎政

拜啓。追々寒冷相催し候處各位愈御清適奉賀候。陳者今回御起案の廓清の義に付贊否御答致すべく書面の趣承知致し候。もとより御趣旨は贊同仕候間此段御答仕候。敬具。

貴族院議員 子爵 松平 乘承

贊成。

衆議院副議長 花井 卓藏

奉祝の爲め催す公會の席に招致せざるは可なりと存候。敬具。

貴族院議員 公爵 一條 基弘

拜啓。陳者先頃御照會有之候大禮奉祝心得方云々の件。至極結構の御趣旨に候へば贊成致候間此段御答如斯候。敬具。

學者教育家之部

文學博士 井上 圓了

拜啓、拙者旅行不在の處今日歸宅、御書面拜見仕候。御趣旨には贊成。就中第一項には大贊成に御座候。右乍延引貴答迄如斯候也。

學習院教授 理學博士 飯塚 啓

御申越の公會之席上に醜業婦を侍せしめざる事其他贊意を表し候。早々。

東京高等師範學校教授 岩川友太郎

拜呈藝娼妓に關する御意見發表の段は兼々傳承仕居候、至極贊成仕候、何卒千載一遇の御大禮を好機とし今後少くも紳士間に彼等の跋扈を杜絶致度希望に不堪候。頓首。

東京府工藝學校長 石黑 友吉

拜復今次の御大典奉祝に際し、御會御主張の通り、醜業婦等を侍せしめず最も嚴粛に擧行すべき事、誠に可然事と同感の至りに候、尚斯る機會に於て貴會の御高教により、一般社會が彝倫道德の缺陥を覺醒せん事を希望するものに候。

九州帝國大學工科大學長 工學博士 服部鹿次郎

十月十二日附を以て御申聞の御趣旨贊成に御座候。御大典にあたりては勿論に候へども、平常に於ても『娼婦絃妓の流が』人目を辱す姿態を公衆の前に現はし『公會の宴を助く』る如きは漸次にても致方無之候間、排斥致す風潮を馴致し度きものに御座候。

法學博士 原 嘉道

一藝妓を公會の席上に列せしめざる件は贊成。

上田蠶糸專門學校長 針塚長太郎

拜復愈々御清適奉賀候。貴會の御企至極同感に有之贊成仕候。益々御盡力相成候樣致度此段得貴意度候。拜具。

帝大教授文學博士 星野 恒

御大典は祭壇に非らず嚴粛を要すべきは勿論に御座候。右御報迄早々。

東京市技師 醫學博士 遠山 椿吉

二項とも御同意に候。然し第二項は單に公娼制度廢止とのみにては不徹底にて之が實行には各種の準備事項も可有之と存じ候。世間の所謂單調なる公娼廢止は不可に候。右申述候也。

東北理科大學長 理學博士 小川 正孝

拜啓御大禮奉祝に關し藝娼妓云々の件は貴會の御主意を贊成致候。敬具。

米澤高工學校長 工學博士 大竹 多氣

贊成仕候。

第六高等學校長 金子銓太郎

御來示の趣旨贊成致候。

加藤 咄堂

拜啓久しく旅行仕り返事遲引いたし候。第一の問題に對しては贊同の意を表し候得共、醜業婦とは何を指すや明確ならず若し藝妓を指すことに有之候得者、彼等に對して慘酷にこれなくや、彼等の大部分に醜業の實はあり、されどそは裏面の汚點にして、表面は藝術家にこれなきや藝術家を公會の席に侍せしむるは差支なしと存候。我等は藝妓として眞に其

の名の如くならしむるやうの取締を望むものに候。

男爵　神田乃武

贊成。

吉田靜致

拜復御尋ねにあづかりたる二項の中第一項につては衷心贊同の意を表し申候。

女流教育家　棚橋絢子

御申越の件第一項のみは至極よろしき事と存じ候間、贊成仕るべく候也。

早稻田大學教授　高杉瀧藏

拜復御主意至極贊成の到に御座候。國民道德とか精神教育とかと當局者は大呼するも今日我國に眞正の道德を實行し又此れを擴張する唱導者なくば國家の大危險と確信仕候。

東京帝國大學教授理學博士　田中舘愛舘

Otegami no omomuki sigoku godokan de gozaimasu

青山高等農林學校長　瀧澤菊太郎

拜啓、醜業婦（藝妓）をして奉祝の爲め催さるゝ公會の席を助けしめざる事の一項を以て贊成仕り候。拜復。

東京帝國大學教授醫學博士　永井潜

贊成。

日本女子大學校長　成瀨仁藏

拜復、御提唱の二問題は御互に多年の主張に有之候得共。未だ理想の實現を見ざるは遺憾の極みに存候。今回の好機に際して此運動を有效なる結果あらしむるやう努力するは、素より我々の熱望する所に有之候。敬具。

東京帝國大學文科大學長　文學博士　上田萬年

贊成。

山脇高等女學校長　山脇房

拜見仕候『醜業婦をして奉祝のため催さるゝ公會の席を助けしめざる事』は至極御贊成に御座候。

帝大教授法學博士　松崎藏之助

拜讀益〻候多祥大賀之至に御座候。御尋ねの事項に關しては大々的贊成に御座候間、右樣御承知相成度右迄早々拜具。

日本女子大學教授　松浦政泰

一女子教育普及の今日彼れ醜業婦をして公會の席を助けしむる必要を認めず大正御大典の紀念として此點に於て一新紀念を開くは實に邦家の一大慶事なりと信す。

二公娼制度の廢止、その實現は尙遠からんもその時機の一日も早からんことを切望して止ます。

東京外國語學校教授　福岡秀猪

拜啓矯風會決議に對する御會の御考へに御同感に御座候。早々御返事可申上の所延引致せし段不惡御容赦被下度候。拜具。

第三高等女學校長　小林盈

拜讀、醜業婦をして公會の席を助けしめざる事、及び風俗紊亂の行動を取締る事は差し當り必要なる急務と存候。

熊本高等工業學校長　川口虎雄

人權を蹂躪せざる範圍に於て御趣旨贊成。

慶大教授法學博士　靑木徹二

一御趣旨は贊成なるも之は御大典の時に限りて言ふべきに非ず平常の機會に於ても亦然るべきなり。

一警告するは結構なるも平素に於て高位高官者流の非行を見遁し置く樣にては却て僞善奬勵の不結果に終るなきを保せず、表面の廓清も無きに優るも根本に徹底せざれば種々の弊害を生じ却而現狀以下と爲るの虞なきに非ず、世態人心の機微に御留意相成度候。

順天堂病院長 醫學博士 男爵 佐藤進

拜啓陳者御照會の御旨意敬承仕候、右は御贊成に付此段及御答候。敬具。

大阪高等醫學校長 佐多愛彥

拜復旅行中の爲め御返事延引仕候。御申聞の趣意は大體に於て贊成に候へ共、其制限如何に依りては萬民一福の主意を逸せずやと懸念仕候。敬具。

醫學博士 桐淵鏡次

拜復御大禮奉祝心得方中娼妓藝妓等に關し賛否御問合に對し左に申上候。

一藝妓は御大禮に際し公の宴に侍せしめざる事は御同感に候。

一廢娼の件は外觀至極結構に候へ共、其裏面に於て爲めに生ずる惡影響(殊に我國に於て)は又意外に恐るべきものありと存じ候に付、此點は尙ほ十分御考慮を希望致度候。

帝大教授文學博士 三宅米吉

贊成。

帝大教授 宮內省御用掛席醫學博士 三浦謹之助

贊成。

帝大教授醫學博士 弘田長

拜啓、既に他の方面よりも藝妓等奉祝云々の義に就て愚見御問合せ有之、小生の意見申述置候、卽藝妓及其雇主の如き者に對し政府は從來一般國民同等に取扱を致し居り候今日此の御大典に際して一般國民と取扱を別種卽差別致候事は頗る矛盾致候義と愚考致し候、小生は原來政府よりも娼婦の如き者及之を雇候者は一般國民と納税等に於ても今より同一に取扱はずして亦同時に自由權を與へざる樣致度精神に御座候。

東京府立師範學校長 鈴木光愛

拜復御申越候件に就ては第二は精神に於て贊成仕るも尙十分の講究を要する事と存じ候。第一は至極贊成に有之候間左樣御承知被下度右候間答申上候。

實業家之部

尾道第六十六銀行頭取 橋本吉兵衞

拜啓、十月十二日附を以て御照會の件は贊成仕候間、此段御回答申上候。早々。

明治製糖取締役長 日本郵船取締役 小川鉡吉

拜復、奉祝の爲催さるゝ公會の席に醜業婦をして助しめざる事には贊成致候。

正金銀行總裁 井上準之助

拜啓、御大禮奉祝心得方の貴會の主旨小生全然大贊成に御座候。

帝國商業銀行頭取 岩井重太郎

拜啓、御誠意の趣旨贊成に御座候。

鬼怒川水力電氣株式會社長 利光鶴松

拜啓、陳者貴會の御主旨は大贊成に有之

之候。

南満洲鐵道株式會社 總裁 男爵 中村雄次郎

贊成。

南満洲鐵道株式會社副總裁 國澤新兵衛

御大禮奉祝に關し、御趣意の次第、至誠贊成に御座候。

東京火災保險株式會社長 安田善雄

御趣意拜見致し候、愚生の如き意見も別に無之候へ共、强いて申上候はゞ、理想の案としては至極結構にて、贊成に候へ共、現今の社會狀態にては如何と案じられ候。今度の御大典は申迄もなく大正には又となき御大典なれば、我日本國民は平等全國民一般擧つて御祝申上度事と存候。

高田市第三十九銀行頭取 丸山保太郎

拜啓。御大典奉祝心得方御聞之御主意同感の至りに御座候。

三井銀行社長 三井高保

御御旨大贊成に御座候。

住友銀行社長 住友吉左衛門

拜復去十二日附御書面を以て御申越の次第に御座候處、御趣旨に於ては至極贊成にして御來示の通實行致度存居候間右御回答如斯御座候。敬具。

總督 府縣知事 內務部長 警察部長 之部

佐賀縣知事 石橋和

贊成。

滋縣內務部長 堀田善次郎

拜啓御來示拜誦仕候。御主意は勿論贊成に有之候。

石川縣知事 太田政弘

拜復時下秋冷の候各位益〻御清適奉恭賀候、陳者十月十二日付御書面は如何なる行違ひなるか當方に到達せざるも他より傳聞する處によれば御趣旨に對しては至極贊成に有之候祭御了承相成度右不取敢貴答まで如此御座候。敬具。

千葉縣警察部長 大海原重義

藝妓等の御大典奉祝に關する件に付き御照會の件は無條件にては贊否を決し兼候、小生は大體次の如き愚見を懷くものに候即藝妓等と雖も國民の一員たる以上御大典に對し誠意敬虔の態度を以て之を奉祝するは固より毫も妨げざる處に御座候然れども彼等が華美淫靡の姿裝をなし名を神聖なるべき御大典奉祝に藉り其稼業廣告せんとするが如き擧は之を斥くべき儀と存候。尙御大典奉祝に關する各種の公會に彼等を招致するが如きは紳士として愼むべきことに屬すと考へられ候。

沖繩縣知事 大味久五郎

御趣意に贊成致度候。

高知縣警察部長 和田和

贊成。

三重縣內務部長 橫田鄉助

御趣旨は御尤の儀と存候、但し其實行に付ては一面に於て上下同慶擧國共歡の要旨に依り彼等の國民の一員としての立場を無視するの嫌なき樣篤と留意を要

すべき儀と存候。

岩手縣警察部長　梅谷　光貞

拜復、御申越の件了承。右は御趣旨の存する處至極結構と存候へ共。其實行は頗る困難かと憂慮いたし候。不取敢及御答候。敬具。

愛知縣警察部長　丸山　藤平

拜復、貴會愈々御隆盛奉賀候。御照會の儀誠に結構の事にて、貴會が社會風敎の改善に力を注がれ候儀、深く〱賛意を表し申候。早々。

臺灣總督　男爵　安東　貞美

賛成。

縣會議長 市長 市會議長 之部

徳島市長　一坂俊太郎

貴會之御主意を賛成致候。敬具。

麹町區長　橋本久太郎

拜啓陳者十月十二日附を以て御大禮奉祝心得方中殊に娼婦藝妓の類に關し賛否御尋を蒙り候處右は御趣旨に於ては深く御同感を覺候へ共之れが實行上には多少の酌量を加へ不申而は難相成樣に考居候間右樣御承知被下度及拜答候。早々敬具。

靜岡市　伴野　欣平

今回御催の御主旨賛成仕候。

赤坂區長　長谷川友次郎

拜復御書面の御趣旨は至極結構の事と拜承仕候得共何人を問はず奉祝の姿態に關し是非する事は如何と存候、苟も敬意を失せざる以上各其身分職業に應じ奉祝の誠意を表するは敢て差支へなき事と相考へ候。敬具。

徳島縣會議長　原田佐之治

拜啓仕候。陳者來諭敬承賛成仕候間、可然御取斗被下度候。

熊本市會議長　大谷　高寛

拜啓貴會の御趣旨至極御同感に有之、全然賛成仕候。

岡山市長　岡田　磐

拜啓御大禮奉祝の際藝娼妓の行動上其他に關し御來意の趣敬承、其の趣は賛同致し候義に有之尤も其の取締等に就ては當地の如きは主管警察官に於て豫て注意相成候趣に承居候次第に御座候彼是取紛し乍延引御回答迄拜具。

小樽區會議長　渡邊兵四郎

拜啓御成定の御趣旨に賛成したるもの左記の通り有之候。

（小樽區會議員）

足立敬次郎　寺田省歸　林清太郎
花田傳七　田中武左衛門　久々津米造
小瀧彌五郎　岡田正三　若桑久吉
牧口末松　田巻誠司　小町谷純
山田辰之進　秋山常吉　河野正治
奥村數次郎　磯野進　岡崎謙
佐々木靜二　柴野卯吉　吉田元﨑

右及御回答候也。

佐世保市會議長　川副　綱隆

拜啓陳者御大典奉祝の義に關し御高議の趣了承、右は御同感に御座候、此段及御答候也。

石川縣會議長 辰村 米吉

拜復、御申越の御趣旨贊成仕候。貴答迄、敬具。

松山市會議長 高須 峯藏

聖恩は廣大無邊なり、假令平生賤業に從事すればとて、彼等亦臣民なり。萬民歡樂を極むる此時に於て、彼等に攻擊を加へ、耻辱を與へて悲痛に陷らしむは、忍びざる所なり。風紀の改善は他に途あるべし。御一考を煩度候。

大津市會議長 園 彝吉

拜復御書面の趣き委細了承仕候、御高說同感の至り、先は延引ながら御贊同の意を表し候。早々敬具。

堺市長 熊野秀之輔

拜復御來示の件は御主趣に於て異議なきも、土地の情況により未だ全癈の時機に達せざるものあるを遺憾に存候。

岐阜市 山田 永俊

御旨趣贊成仕候。

岡山市會議長 佐藤嘉三郎

拜復陳者絃妓をして公會の饗宴を助けしむると云ふ程度に止まる時は別に謹愼に缺くる處ありと云ふを得ずと思量仕り候、唯其度を失せざることに注意することを要するのみ其他の御高見は全然御

御即位大禮奉祝ニ關スル趣旨ハ至深贊成致候敬復
十一月十九日 清浦奎吾

同意に有之候に付、世に警告相願度希望仕候。不備。

福島市會議長 湊 芳藏

御來示頗る御同感に存候。

小石川區長 須崎 緝作

御即位御大典奉祝方法に付、御來旨最も御同感の次第に有之茲に乍延引御返事申上候。

日刊新聞之部

讚岐日報社長 林 保一郎

拜復、御申越相成候儀至極贊成に候、先は不取敢贊意を表すること如斯候。

大牟田新聞社

拜啓、貴會に於て熱心御運動中の御大禮奉祝心得中娼婦藝妓に關する件は、滿腔の誠意を捧げて贊意を表し申候。

横濱每朝新聞社理事 片山 修吾

拜啓、御趣意拜承仕候、誠意を以て贊同致し候。敬白。

追而微志の爲め御返事延引致し候段不惡承了願上候。

第二期締切後既に數十通の回答が來て居るが、紙面に限りがあるら第三期分は次號に於て發表する事とした。

廓清運動の近況

江南生

九月二十八日、衆議院議長官舍に於ける評議員會以來、本部はまるで火事か戰爭のやうな騷ぎ、例の藝妓反對の大運動に忙殺さるゝに至つた。されば勢ひ通常事務や、編輯の如きは全然放擲して澁滯に任ずるの餘儀なき有樣となり、爲めに會員諸君に多少不滿を與へた向があつたかも知れぬ。が事情は正に斯くの通りであるから先づ此點は御諒恕を乞はなくてはならぬ。

△大正會起る

記者は島田會長及加藤博士の旨を受けて、此問題に就いて廓清會若くは婦人矯風會以外の識者の間から運動が起らなければならぬといふので、朝野の諸名士數十名を連日訪問する。其間に別項の井上博士以下の熱心なる發起者を得て、別項の趣意書を宮內官、樞密院、師團長、司令官、學者、名士、實業家、中等以上の學校長、府縣知事、內務部長、警察部長、總督、縣會議長、市長、市會議長、日刊新聞社長宛に配付し、贊同を求めた處、今日迄に別項の如く靡然として熱誠なる贊同を得、尙陸續回答が來つゝある。而も各地の新聞は趣意書の全文を揭げて贊同の意を明にした。

△長崎に於ける活動

一方益富理事は長崎にありて、齋藤警察部長を訪ひ、此問題に就て贊成を求め、更に有名なる島原の海外醜業婦の取締に就て嚴重なる監視を希望したるに、快く承諾せられた。益富氏は更に警察署長に會し今後警察と矯風會が相提携して風敎の爲めに盡されん事を述べ、之亦快諾を得た。

△吳廓清演說會

吳市には、海軍々人ホームを經營して風敎問題の爲めに常に獻身的に奮闘せられつゝある十時菊子女史があつて、逸早く今回の運動に就ても活動を始められた。矢島老先生を迎へて演說會を開かれたのをきつかけに、去月更に益富理事が九州よりの歸途を迎へて盛大なる演說會が開かれた。太田機關少佐の司會にて、益富氏は「廓清會とは何ぞや」の題下に熱辯を揮はれたが、其後、十時女史や太田少佐等の熱心なる盡瘁によつて、愈々近日中に支部組織とする筈になつてゐる。

△神戶支部發會式

十月二十四日、神戶に於て廓清會支部發會式を開いた。此程歸朝せられたる海老名彈正氏出演「風敎の危機に就て市民に訴ふ」と題し、得意の雄辯を以て多大の感動を與へられた。本部よりは島田會長の祝電、並に矢島矯風會頭、山室救世軍大佐よりの祝電があつて、廓清の靈火天に冲するの慨があつた。而して先般來これ等の運動の效果空しからず、同地にては藝妓の行列を禁じ、公會の席に聘ばぬ事となつたから喜んで吳れとの報告があつた。

△京都に於ける活動

益富氏は去る三十一日京都に入り、大阪より林歌子女史を招き、京都矯風會の宮森幽香子氏及び矯風會本部の守屋東子氏及び原田本會京都支部長と會同し、大正會の概況を述べて更に今後の作戰を凝議した。益富氏はそれより同志社女學校に於て一場の講話をなし、原田同志社大學長と共に更に知事を往訪したが不在であり警察部長も亦留守であつたから、保安課長に加藤弘之、島田三郞兩氏の代理の資格を以て會見し、意見を述べて府知事へ傳言を依賴して退出し、直に市役所を訪ふたが市長も亦不在にて玉川助役に意見を述べた。

△仙臺に於ける活動

十一月三日、益富氏は仙臺に行き共同傳道の催しにかゝる演說會に臨んだ。內容は全く廓清演說會であつて氏は「大典と藝妓」と題し、安藤太郞氏は「禁酒論」を、笹尾博士は「社會改良に於ける基督敎の動力」と題し。有益なる集會が開かれた。

△大隈首相訪問

議長官舍の決議に基き、矢島副會長及び油谷理事は去月十日、大隈首相を早稻田の邸に訪ふた。油谷理事は一通りの挨拶が濟むと態と椅子より起立して演說口調を以て滔々と歐米の風敎取締より說き起して現下の問題に論及し、道の長廣舌伯を後へに

瞭若たらしめたが、伯は終始誠實に傾聽し、「一木は眞面目な男故やろであらう。自分からも話してやろ」との言質を得、鄭重なる伯の歡待を受けて歸つた。

△宮相と內相とへ

島田議長は波多野宮相を、宮內省に一木內相を東北大演習供奉の機會に於て、何れも非公式に會見主張の要點を述べ、且つこれが基督敎徒や平素社會改良を口にする人達のみの希望に止まらず、今回大正會なるものが特に其の運動の爲めのみに出來て、四方に贊同を求めたる處朝野を擧げて陸續識者の熱誠なる贊同を得つゝありて、全く健全なる輿論なれば之が實行を望む旨を、非公式に述べられた。

△大正會大演說會

二十八日午後五時、神田靑年會館に於て大正會の藝妓反對大演說會が開かれた。第一席浮田和民氏は「男女交際の新道德」と題し、第二席三輪田元道氏は「精神的眞文明」と題し、第三席安部磯雄氏は「社會の誤解を辯ず」と題し、第四席井上哲次郎氏は「大典に對する國民の心得」と題し、何れも堂々たる大演說を試みられたので翌日の新聞紙は何れも盛んに此集會の景況と演說の大要を報道した。來會者五百名入場料十七圓餘、

△矯風會廓淸會聯合大演說會

三十日午後六時、神田靑年會館に於て基督敎婦人矯風會と本會と聯合主催の下に、大々的に演說會を開く、第一席內ケ崎作三郎氏は「不徹底なる祖先崇拜」の題下に、第二席益富政助氏は「藝妓即醜業婦十ケ條」と題し、第三席矢島楫子氏は『絕大好適の記念事業」の題下に臨來を感動せしめ、伊藤富士雄氏所感を述べ第五席後藤武夫氏廓淸會又は矯風會以外に實業家として此問題を如何に見るかを發表せられ。第六席島田三郎氏は「破壞の時代より建設の時代へ」の題下に、第七席小林丑三郎氏は「醜業者の待遇」と題し大演說を試みられ、破るゝが如き喝采の裡に目出度閉會したのは十時であつた。此日滿員の盛況にて千餘名に上り立錐の餘地なく、入場料を徵したる者のみにて九百人卽ち四十五圓を得た。

△牛込區會員家庭會

これより先、豫て計劃して居つた會員と幹部及び會員相互の家庭的懇談會の第一回を十三日牛込區に開いた。會場は市ケ谷八幡町の理事松宮彌平氏宅で、婦女新聞社長の福島四郞氏等を始め二十名來會、懇談の裡に十一時散會した。次回は十一月六日角田眞平氏邸に開く事にし、此會を支部の樣な形にして永續せしむべきを決議し、幹事として、治部茂氏、角田龍雄の二氏就任された。

△麻布區會員家庭會

二十日、麻布區在住會員の家庭懇談會を、本村町の世津谷銳次郞氏方に於て開いた。油谷理事出席せられ、油谷、世津谷兩氏の講話あり、麻布靑年會員等十餘名出席十一時散會した。本區に於ては全く次回に支部組織となす豫定にて、幹事として、中村銊太郞、手塚藤太郞二氏を擧げた。

△內相と警視總監と

地方に於て、着々健全なる輿論の起りつゝあるに對し、中央に於ても贊否種々の說漸く喧すしき間に漸次我廓淸軍の勝利が見へて來る。即ち本會が決議したる、公人の主催する奉祝會に藝妓を侍せしめざる事は、全國に徹底して全く之が實現を見んとする形勢である。人目を聳す姿態を以て大路を公行するのを差止むる件は、却つて地方に於ては理想通りに行つた處もあるが、東京市に於ては却つて頗る危ぶまれる形勢となつたので、加藤博士の如きは大に氣を操んで、內相と警視總監へ手紙を以て警告を發せられた。更に島田議長は內務大臣を內務省に訪ひ、益富氏は湯淺警保局長に會見し警告する處があつた。

四日益富氏は加藤島田兩氏の代理として警視總監を訪ふたが、不在との事に止むなく長谷川保安部長と會し、主張の要點を述べて實行を促した。

△地方に對する警告狀

五日、全國の各府縣知事市長に對し、加藤弘之男の名を以て、大正會贊成者三百四十名の代理として警告狀を發した。

（每月一回一日發行）
大正四年十一月一日納本　一部定價金六錢
大正四年十一月一日發行　本號ニ限リ金十錢
編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　神田區三河町一丁目十四番地　小林照雄
印刷所　神田區三河町一丁目十四番地　丸利印刷所
發行所　芝區三田四國町二番地廓淸會　廓淸發行所

THE NANKOIN HOSPITAL

Chigasaki, Kozagori. Sagami. (Near Oiso)

UNDER THE MANAGEMENT OF

Dr. K. TAKATA.

Within a few minutes from the Chigasaki Railway Station

Healthiest Situation

FACING THE SAGAMI BAY

FINE SCENERY

Telephone : Chigasaki No. 2

院長診察、月、水、木、金午前、入院隨時

林、峰間兩副長は目下當院に在勤

東洋内科醫院

電話番町六二一番

麹町區三番町三十番地

院長醫學士　高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町柏海濱、停車場より半里

電チガサキ　二番

南湖院

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

院長診察、土曜日午後、入院診後應需

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）（大正四年十一月一日發行）（毎月一回一日發行）

最近市内の有力なる小賣店の報告に曰く
クラブは一番品が良いので

歯磨モ白粉モ洗粉モ

近來クラブばかりが賣れて居ります

クラブは一番品か良いから
近來面白い様に賣れて居ります

本號に限り一部定價金十錢